

平成 19 年度グループ・プロジェクト研究

報告書

野々市町のケータイ・リテラシィ学習経験をもつ
携帯電話新使用学生の利用実態調査

指導教員小林俊哉

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科社会システム構築論講座
伊藤研究室

0750008 大戸朋子

2008 年 6 月

目次

はじめに.....	3
I 調査研究の背景	
I .1. 青少年に浸透する携帯電話.....	4
I .2. 「学校裏サイト」といじめ.....	6
I .3. 野々市町の「携帯持たせない運動」.....	6
II 調査研究について	
II .1. 概要.....	8
II .2. 調査について.....	10
III 明倫高校アンケート集計結果	
III.1. 明倫高校全体	
III 1.1. 集計グラフ.....	12
III 1.2. 明倫高校全体のまとめ.....	20
III.2. 野々市学生と他地域学生との比較	
III 2.1. 集計グラフ.....	25
III .2.2. 野々市学生と他地域学生との比較のまとめ.....	33
IV まとめ	
IV.1. アンケートについてのまとめ	
IV.1.1. 明倫高校生の携帯電話使用実態.....	36
IV.1.2. 「有害サイト」.....	37
IV.1.3. 学生の日常と web ページ.....	39
IV.1.4. web 上の見知らぬ他者.....	40
IV.1.5. インターネットと「悪口」.....	41
IV.1.6. 「携帯持たせない運動」の影響.....	42
IV.2. 若者と携帯電話	
IV.2.1. インターネットと「居場所」.....	44
IV.2.2. 携帯電話だけが「悪」か?.....	45
IV.2.3. 今後の展望.....	45
IV.2.4. おわりに.....	45
資料	
調査票.....	48
新聞記事.....	53

はじめに

能美市および野々市町は、全国でも珍しく小・中学校からケータイ・リテラシー教育を行っており、義務教育期間はケータイを持たせないという取り組みを行っている。しかし高校入学に際して殆どの保護者が子どもにケータイを買い与えており、石川県内では高校生の 95%がケータイを所有しているという。これは全国でも同様であり、高校生では保有率 97%を示し、そのほとんどが高校生になってから初めて与えられるものであるという。その中でも能美市・野々市町区内の高校では、ケータイ・リテラシー教育を受けてケータイを持ち始めた学生と、全くケータイ・リテラシーを受けずにケータイを持ち始めた学生とが混在しているという特徴を持っている。

本調査研究においては、ケータイ・リテラシー教育がそれを受けた学生が、その後どのようにケータイ利用をしているのか、また、ケータイ・リテラシーを受けていない他地域の学生との間に、ケータイに対するどのような意識差があるのかを明らかにしたいと考えている。そのため、能美市区内の中学生・野々市町区内の高校生を対象に、調査・研究を行い分析していく。

本調査研究の進行と報告書は、様々な方々のお力を借りることという形になった。このテーマでの進行を許して頂き、暖かく見守り指導して下さった指導教官の小林俊哉先生、全面的な調査協力をして下さった町民会議対策部会関係者様、野々市町住民生活部広報情報課の榎谷泰裕様、野々市町少年育成センターの井川かすみ様、アンケート調査をご快諾頂き実施にご協力して頂いた明倫高校校長様および関係者様、アンケートに回答して下さいました明倫高校の学生のみなさんに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

そして、本研究のグループメンバーである水澤和正さん、小埜嘉之さん、成田忠広さんに、深く感謝致します。

I 調査研究の背景

I.1. 青少年に浸透する携帯電話

近年の携帯電話の急速な普及¹⁾は、人びとの情報伝達をより円滑なものとさせ、現在では携帯電話は、日常の中で「あって当たり前」のツールの一つとなっている。特に青少年の所持率については、高校生では 90%を超えており、中学生・小学生においても確実に普及が進んでいる。これは、ただ携帯電話が便利な情報交換ツールとしての役割だけではなく、携帯電話を通じて、様々な人間関係が築かれているためだと考えられる。2006 年の総務省の情報通信白書によれば、現在のインターネット利用は、パソコンからの利用よりも、携帯電話からの利用が上回っており、今後もこの傾向が続くものと思われる。

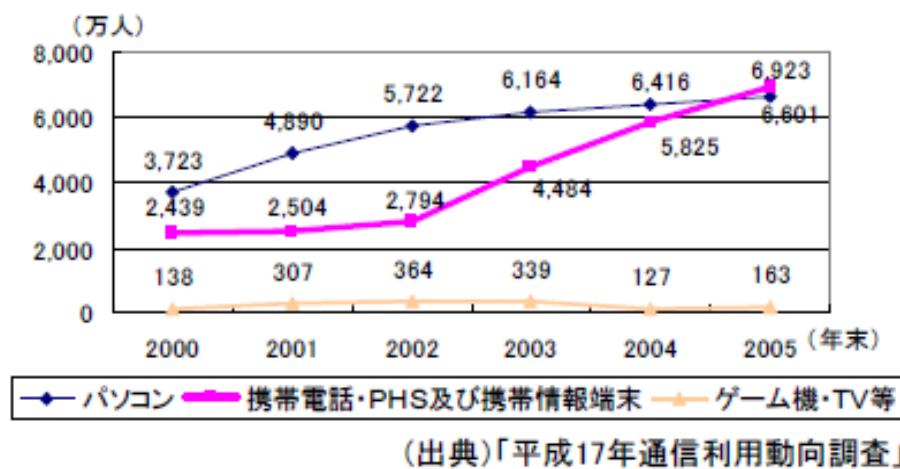


図 1. 各インターネット利用端末の推移

<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/ja/h18/summary/summary01.pdf>

携帯電話はその「いつでも、どこでも」人とつながりあえるという性質によって、人びとに他者との出会いを容易に提供する。そしてその性質は、現代の青少年の多くに受け入れられており、中・高校生を中心とした「モバゲータウン」や「プロフ」などの存在がそれを物語っている。そして、その中からケータイ小説と呼ばれるジャンルも育ってきており、高校生が携帯電話を通じて、小説を発表し出版されると言うケースも増加してきている。つまり、小椋山の示すように、青少年にとって、携帯電話はもはや「電話」だけだとはいえない存在なのである【小椋山,2005²⁾】。確かに携帯電話は情報伝達をスムーズにさせ、様々な人とのつながりや可能性を人びとの前に提示している。しかし、一方で、「出会い系」や「チェーンメール」、「学校裏サイト」や「有害サイト」などの危険性を常に孕んでいるのが現状である。そのような面を知りながらも、携帯電話を持つ青少年のほとんどが、自

¹⁾ 我が国における携帯電話・PHS 加入数は 2006 年段階で一億に達しようとしており、おそらくこの数値の上昇は続くものと考えられる。総務省,2006,「移動電気通信事業加入数の現況」(http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060526_7.html,2008.2.15)。

²⁾ 小椋山賢二, 2005『ケータイ進化論』NTT 出版。

己防衛策をとっていない。例えばフィルタリング³についても、総務省の行った「平成 18 年度電気通信サービスモニタに対する第 2 回アンケート調査」によれば⁴、携帯電話会社が提供する有害サイトアクセス制限サービスの認知状況は「聞いたことがある」程度に留まっている[総務省,2006]。また利用率についても、小学校 3～6 年ではともに 4 割を超える利用率があるが、中学、高校と年齢が上がるに従って、利用率は低くなっており、中学生になると 2 割程度、高校生になると、1 割をきるといった状況である。つまり、義務教育の間は、親の監視下で防犯対策がなされているが、高校生になると、自己責任としてこの点が青少年に任されているということを示しているのではないかと考えられる。

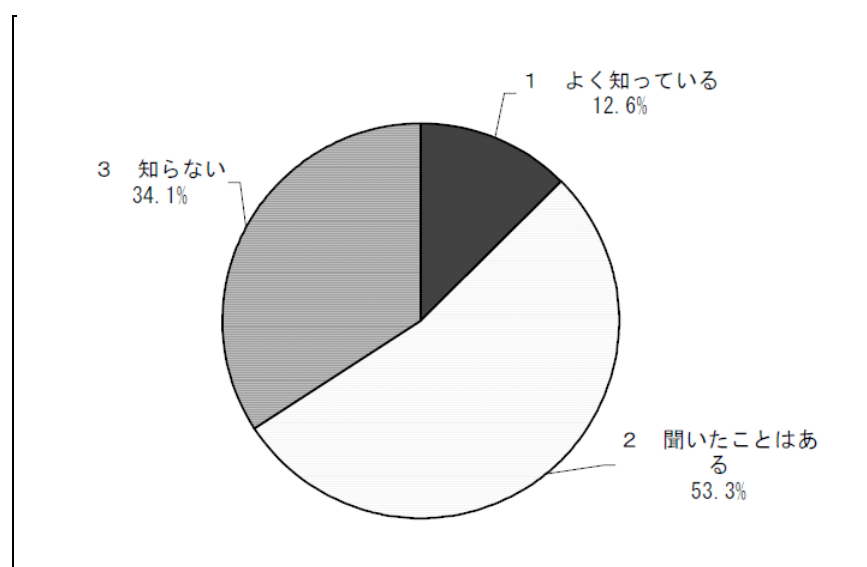


図 2. 携帯電話会社が提供する有害サイトアクセス制限サービスの認知状況
(n=933)

出所:総務省,平成 18 年度電気通信サービスモニタに対する第 2 回アンケート調査結果

しかしながら、2007 年 12 月 8 日の能美市児童会・生徒会役員交流会保護者対象研修会にて能美市の生徒会役員の中学生にこの点についてたずねると、防犯対策を何も行っておらず、「フィルタリングについても必要性を感じられない」という意見が大多数を占めた。また、危機意識についても薄く、「自分に限って何かが起こるはずがない」、「何かあっても、自分や友達で何とかできる」という意見が聞かれた。一方で、7 月・9 月のサイエンスカフェにて保護者からは、フィルタリングは必要であり、利用するべきとの意見が出ている。

本当に「携帯電話に関係した事件」は青少年にとって遠い存在なのだろうか。そして、保護者が望むように、フィルタリングを利用することで、青少年を危険から守ることができるのだろうか。

³ フィルタリングとは、インターネット上のウェブページ等を一定の基準で評価判別し、選択的に排除する機能のことである。また、携帯電話におけるフィルタリングでは有害サイトへアクセスできないよう、携帯キャリアが行う施策のことを指す(親がフィルタリングサービスに申し込むことにより、子どもの携帯から、出会い系サイトなどの有害サイトにアクセスできないようにするサービス)。

⁴ 総務省,2007「フィルタリングについて」(http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070522_6_bs.pdf,2008.2.15)

I.2.「学校裏サイト」といじめ

2007 年 11 月神戸の高校にて、当時中学 3 年生の男子生徒が飛び降り自殺をした。この自殺の背景には、学校裏サイトでの男子学生に対してのいじめがあり、その加害者は同級生の男子生徒であったとされている。

「学校裏サイト」とは、学校別に掲示板が立てられ(なかには学年別に細かくスレッドが立てられているものもある)、クラスメイトや先輩・後輩、または教師に対する評判や誹謗中傷まがいの言葉が書き込まれている。しかも、多くのインターネット掲示板とは異なり、無防備に身近な友人・知人を実名で語っている。

このような学校裏サイトに関係したいじめの場合、加害者が見知らぬ他人ではなく、見知った友人、同級生、または同じ学校の生徒であるため、この場合、見知らぬ他人からの被害を食い止めようとするフィルタリングは効果を見込めない。また、学校裏サイトの大多数が携帯電話からしかアクセスできず、かつ書き込めないようになっている。そのため、リアルタイムで被害者に対しての情報が共有され、いじめが進行する可能性がある。このような問題に対して、野々市町などでは、ボランティアがフィルターの対象外になっている学校裏サイトなどを探し、削除依頼をするなど行っており、このような自治体の取り組みは今後とも重要であるといえる。

「学校裏サイト」だけが携帯電話といじめを取り巻く問題ではない。最近の携帯サイトでは「プロフ」と呼ばれる、携帯電話のプロフィール作成サイトがある。これは若年世代を中心に写真付きの詳細なプロフィールを作成し、コメントなどを求めるサイトである。その利用者の多くが中高生であるといわれ、中には自分の裸をアップロードしている子どももいる。このように、インターネット上に気軽に個人情報を書き込むことに対する危機感が子どもの間で薄れており、これが、いじめが発生しやすい状況を生み出す一要因として考えられる。

しかしながら、有害な情報に対する子どもの防衛対策として、フィルタリングはある程度有効であると考えられる。しかし、いじめに対しては、フィルタリングは防衛対策としては不十分である。

また、出会い系サイトに関連した事件の被害者についても、警視庁による 2005 年度の報告⁵では、検挙件数の約 8 割が 18 歳未満の児童に関わる事犯であり、被害者数は、小学生から高校生までで 856 人にも上る。しかも、その出会い系サイトへのアクセス方法の 96.5% が携帯電話を使用したものであったとしている。

I.3. 野々市町の「携帯持たせない運動」

このような状況の中、石川県の野々市町では、小・中学生を対象とした「携帯持たせない運動」を政策として町全体で取り組んでいる。これは、「子供を子供にとって有害なものから守ろう」という考えの下で行われている政策であり、町内の小学校高学年や中学生全学年を対象に「携帯電話対策教室」や「メディア・リテラシー育成教室」と名前付けた学習教室を開催し、講演会などを行っている。この活動により、野々市における携帯電話の

⁵ 警視庁,2007「あぶない!出会い系サイト」(<http://www.npa.go.jp/cyber/deai/data/index.html>,2008.2.15)

所持率は横ばい、低下(小学6年生 7.7%、中学2年生 12.3%)を示している。



図 3. 「携帯持たせない運動」 ロゴマーク

<http://www.netizenenv.org/jouhou/nonoiti.htm>

しかしながら、この運動対象は義務教育学生を対象としたものであり、高校に対しては全くなされていない。また、過去に野々市で携帯電話についての対策学習を学んだ高校生を対象とした追跡調査が行われていないため、現在、どれだけ携帯電話に対する危機意識が彼らの中で育っているのかといった点が明らかとなっていない。

そのため、本研究は、過去に野々市で携帯電話についての対策学習を学んだ高校生の現在の携帯電話に対する使用の実態と、他の地域の高校生と比較することで、彼らの間でどのような意識差が現れているのかを調査する。それにより、野々市町における「携帯持たせない運動」の効果を明らかにし、野々市町の携帯電話対策研究の充実と青少年健全育成活動の活性化を図るものである。

Ⅱ 調査研究について

Ⅱ.1. 概要

メンバー

指導教員：小林俊哉（准教授）

推進者：大戸朋子（知識科学研究科）、小埜嘉之（知識科学研究科）、
成田忠広（知識科学研究科）、水澤和正（知識科学研究科）

● 研究の問題対象と実施活動

本研究では「野々市町の高校生の携帯電話に対する意識として、どのような傾向を持っているのか」という問題を対象とする。

野々市町においてケータイ・リテラシー教育を受けた小・中学生が、その後高校においてどのような携帯電話利用をしているのかを明らかにし、ケータイ・リテラシー教育を受けていない他地域の学生と、ケータイ・リテラシー教育を受けた学生とでは、携帯電話に対する危機感についてどのような意識差があるのかを明らかにする。また、高校生の携帯電話・インターネットの使用実態、その活用能力及び危機回避能力等の実態を明らかにすることによって、野々市町の携帯電話対策研究の充実と青少年健全育成活動の活性化を図る。

具体的には、石川県立野々市明倫高等学校の在学学生を対象としたアンケートを行う。

● 研究方法

野々市町区内の高校生のケータイ利用実態調査。

野々市町区内の高校に通う学生を対象としたアンケート等。

● 研究の特色・意義

野々市町は、全国でも珍しく小・中学校からケータイ・リテラシー教育を行っている地域であり、本研究は、地域と密着した事例研究としての特色を持っている。

また、本研究課題の関連では野々市からプロジェクトの要請の前例があり、非常に需要のある研究であることが判明している。本研究では野々市町の調査に力点を置き、今後の野々市町に携帯電話対策に対する何らかの示唆をもたらすことが出来るのではないかと考える。

● 期待される成果

野々市町区内で行われているケータイ・リテラシーが実際の使用段階において有効性があるのかどうか分かる。

本研究での結果を、野々市町区内で行われているケータイ・リテラシー学習にフィードバックさせ、今後の学習内容を充実させる。

● 実施計画

<2007年>

7月7日・9月8日 サイエンスカフェ「IT、ケータイと子どもの安全・安心」

北陸先端科学技術大学院大学(以下JAIST)にてサイエンスカフェを開催し、ファシリテータとして参加した。保護者の有害情報に関する知識や疑問点などを調査。

10月13日 野々市町インストラクター要請講座

野々市町にて有害情報に関する内容とその対策法の一つであるフィルタリングについて、野々市町のインストラクターを目指す方々に講演。

12月8日 能美市児童会・生徒会役員交流会保護者対象研修会

能美市根上会館にて中学生に対して、有害情報・フィルタリングについて講演し、さらに携帯電話についてサイエンスカフェを行った。

<2008 年>

1 月 15 日 明倫高校に対して研究説明

対象校である明倫高校について、概要を説明し、了承を得た。

1 月 22 日 第4回携帯電話対策部会

野々市町において、本研究の決定の了承を得る。

2 月 1 日 調査票を明倫高校に配布

2 月 12 日 調査票を回収

2 月中旬から 集計作業

4 月 23 日 実態調査結果検討会の開催、中間報告

JAISTにて、“ののいちっ子を育てる”町民会議より3名と集計データについて検討を行った。

5 月上旬から 報告書作成作業開始

6 月 7 日 サイエンスカフェ「知っていますか!「モバイル社会との付き合い方」

JAISTにてサイエンスカフェを開催し、中学一年生54名を対象に講演。

6 月上旬 報告書の発行

.2. 調査について

主催

北陸先端科学技術大学院大学、“ののいちっ子を育てる”町民会議（以下、「町民会議」という。）

協力

石川県立野々市明倫高等学校（以下、「明倫高校」という。）

対象

明倫高校一、二年生全員 計 15 クラス、約 600 人を対象とする。

調査日程

- 20 年1 月9 日 町民会議・JAIST 打ち合わせ会、調査票原案の確定
- 1 月15 日 明倫高校に研究説明
- 1 月22 日 第4 回携帯電話対策部会、研究の決定
- 2 月1 日 調査票を明倫高校に配布
- 2 月12 日 調査票を回収
- 2 月中旬から 集計作業

調査内容

1. 高校生の携帯電話・インターネットの使用の実態
2. 高校生の携帯電話等の活用能力、危機回避能力の実態
3. 高校生の生活や人間関係形成に及ぼしている携帯電話の影響
4. 居住地域による高校生のリテラシー形成の実態

事務分担

JAIST ...調査票作成、集計作業、調査結果の分析・考察、中間まとめ作成、報告書作成

町民会議...実態調査検討会・打ち合わせ会の開催、明倫高校への依頼、
調査票の配付・回収、報道発表

実態調査検討会について

この研究を円滑かつ効果的に実施するため、調査結果を分析する実態調査検討会（以下、「検討会」という。）を2 回程度開催する。

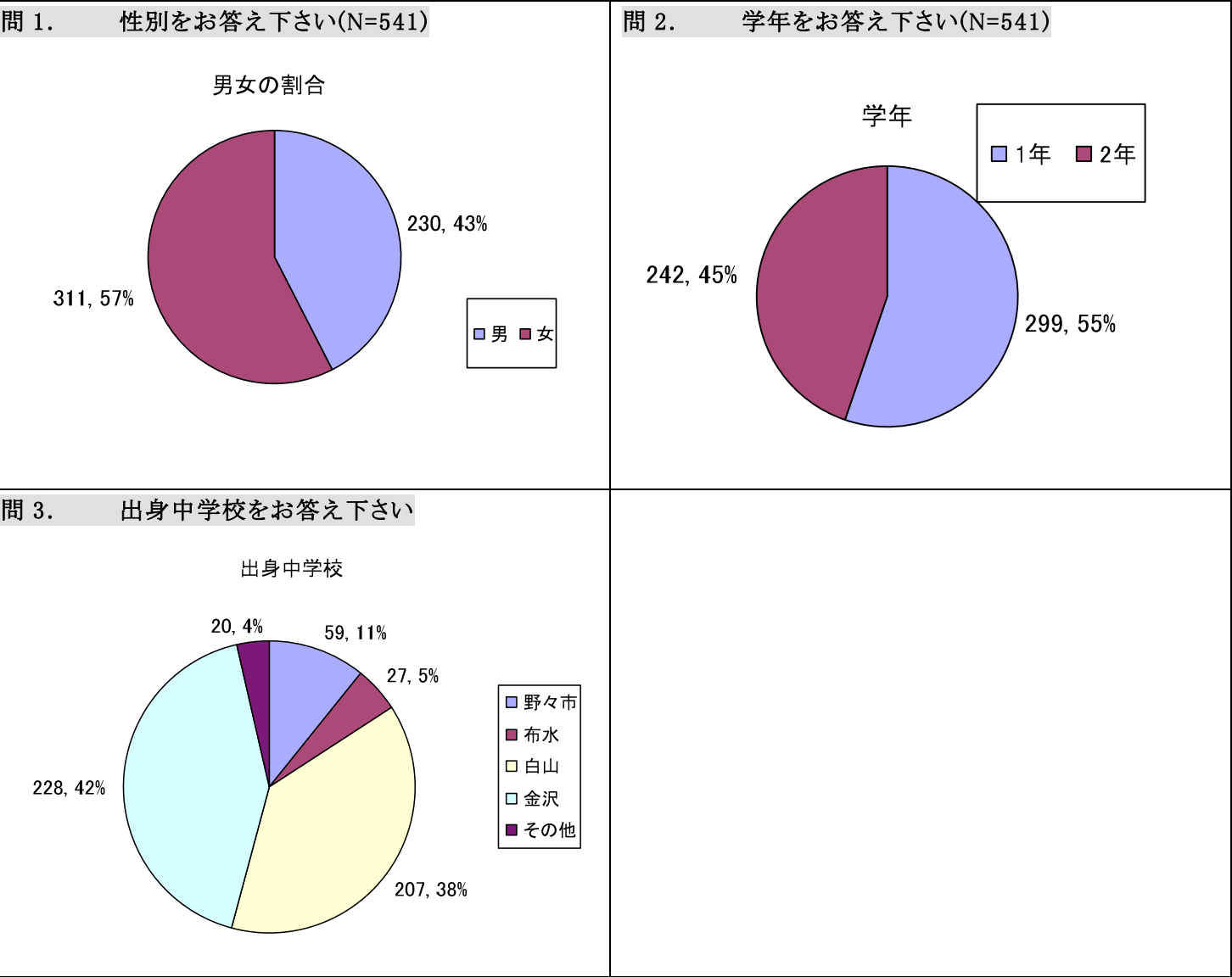
また、検討会の構成員は6 名程度とする。JAIST は小林俊哉准教授、町民会議は携帯電話対策部会長が構成員を選考する

Ⅲ 明倫高校アンケート集計結果

Ⅲ.1. 明倫高校全体

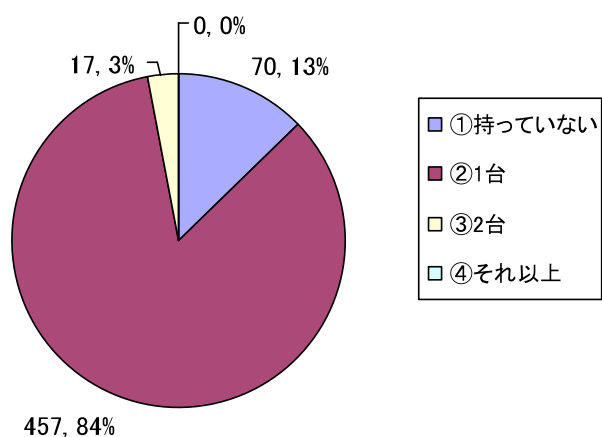
Ⅲ1.1. 集計グラフ

基本情報

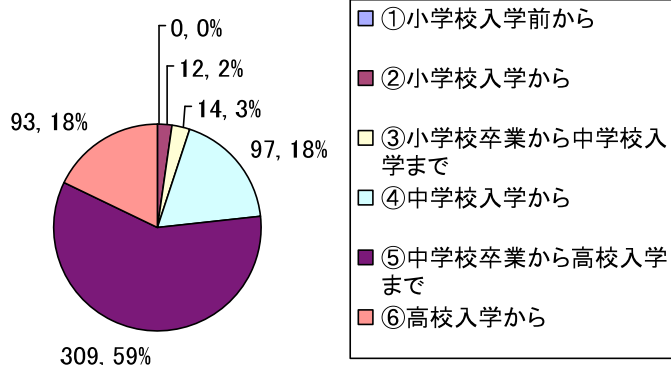


携帯電話について

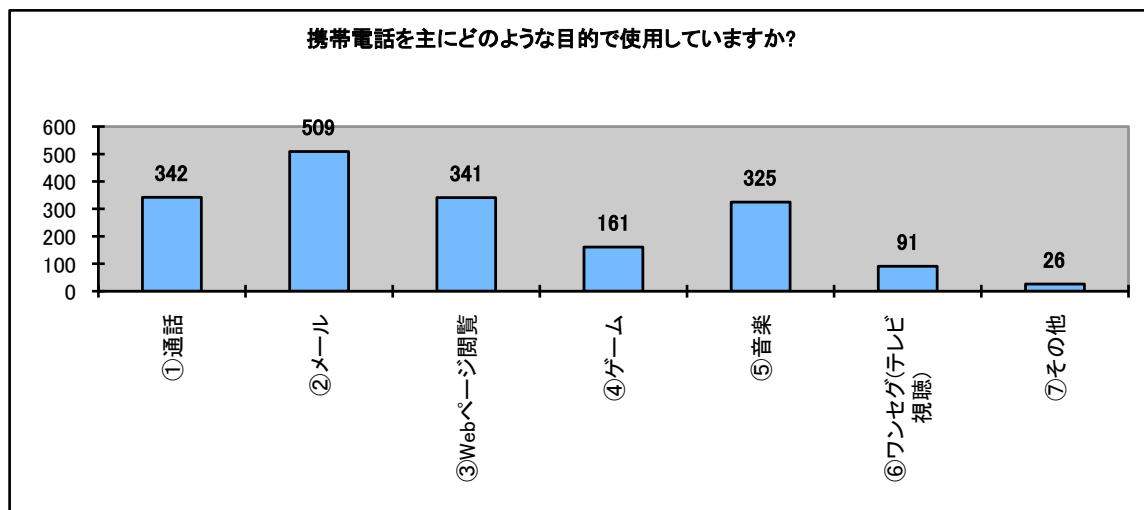
問 4. 携帯電話を何台使用していますか？



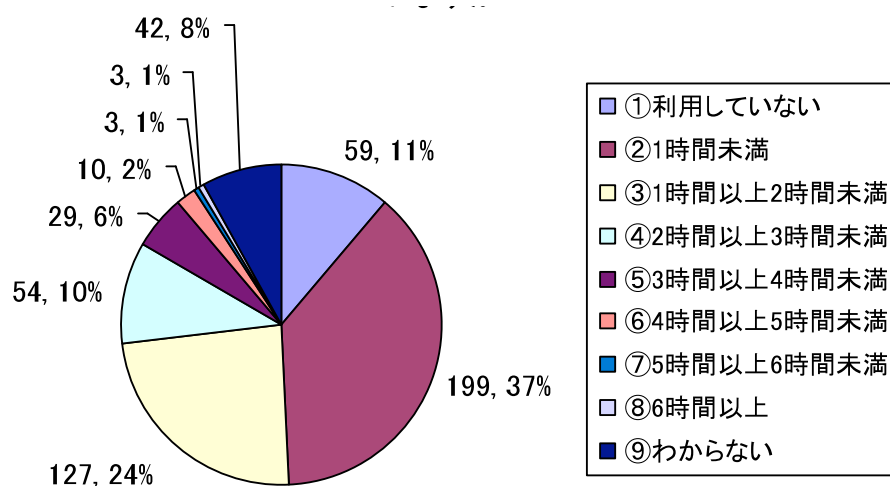
問 5. 携帯電話をいつ持ち始めましたか？



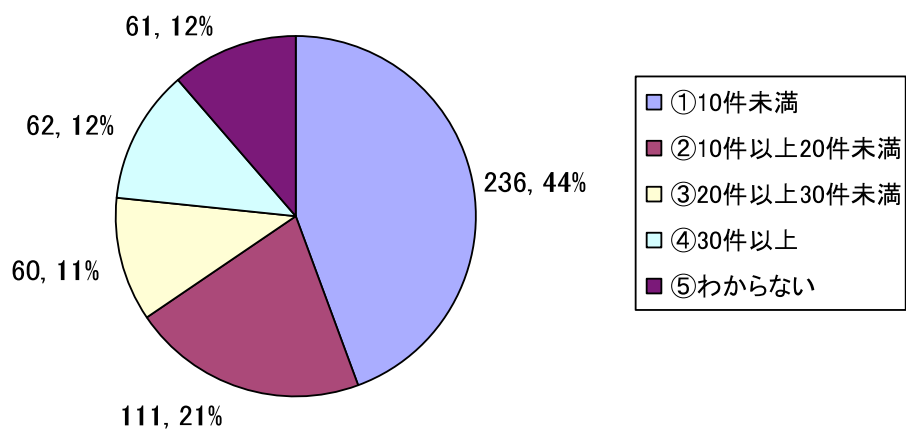
問 6. 携帯電話を主にどのような目的で使用していますか？



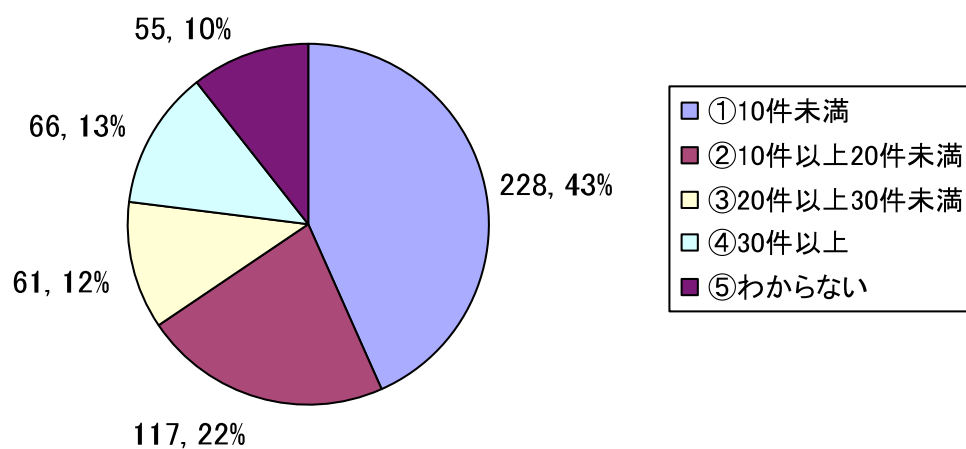
問 7. 一日平均でどのくらいの時間携帯電話でインターネットを利用していますか？



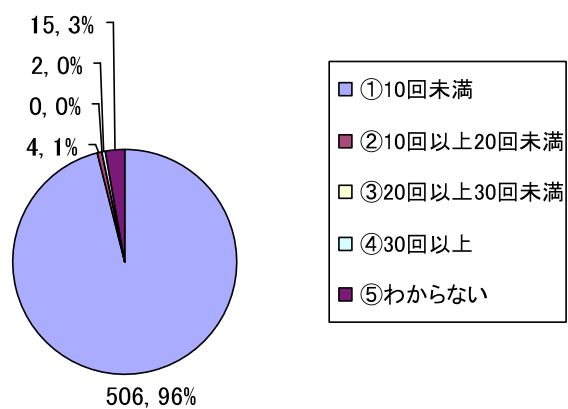
問 8. 一日平均でどのくらい携帯電話からメールを送信していますか？



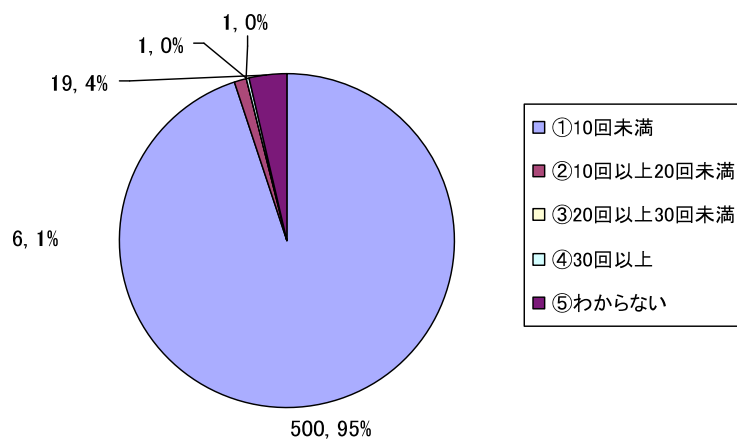
問 9. 一日平均でどのくらい携帯電話でメールを受信していますか？



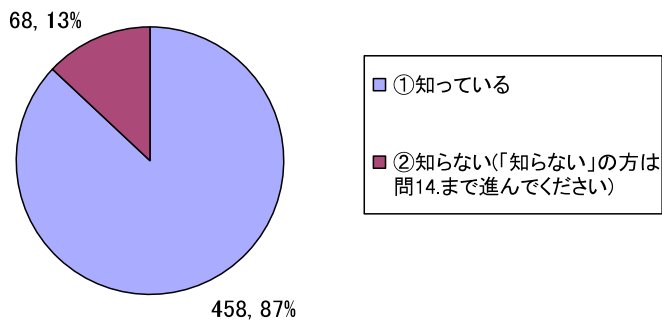
問 10. 一日平均でどのくらい携帯電話から電話をかけますか？(通話回数)



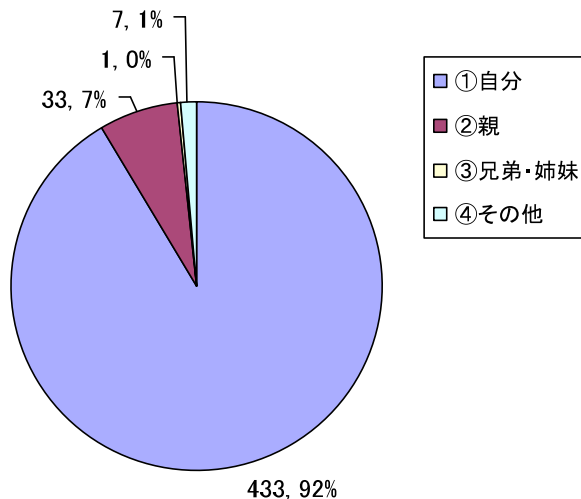
問 11. 一日平均でどのくらい携帯電話に電話がかかってきますか？



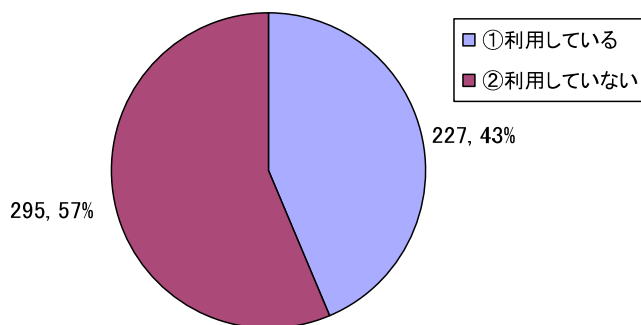
問 12. あなたは自分の一ヶ月の携帯電話の請求額がどれくらいか知っていますか？



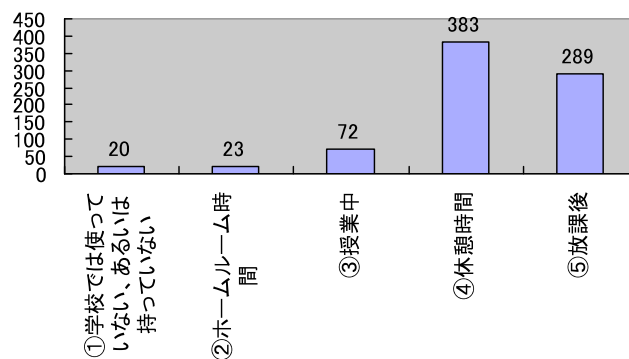
問 13. あなたの使っている携帯電話の料金は誰が支払っていますか？



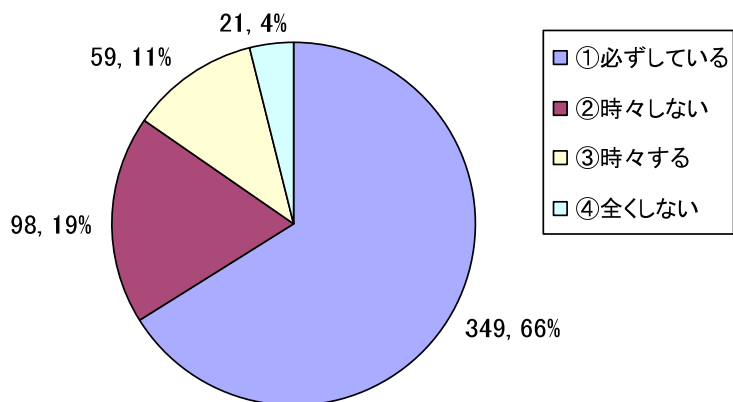
問 14. 課金・有料サイト(提供されているコンテンツを利用する際に料金がかかるサイト)を利用していますか？



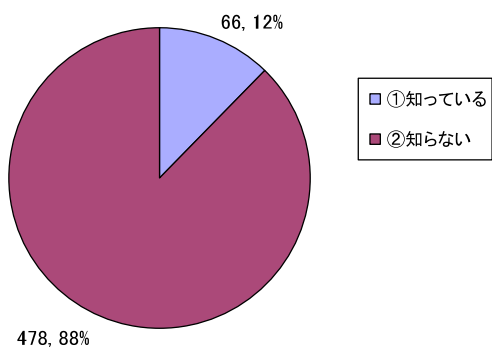
問 15. 学校ではいつ携帯電話を使用していますか？
当てはまるもの全てにマークしてください。



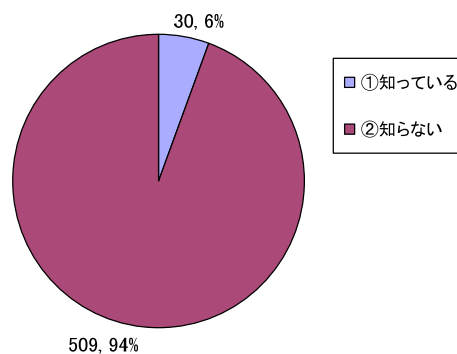
問 16. 公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？



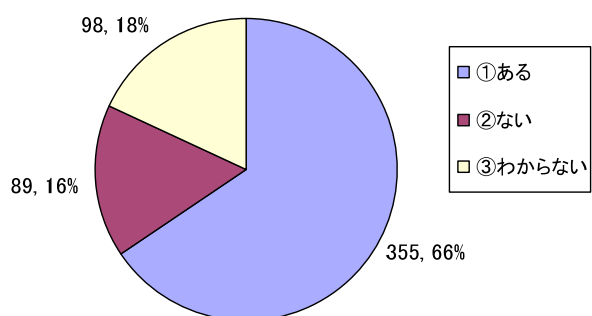
問 17. あなたはリテラシーという言葉を知っていますか？



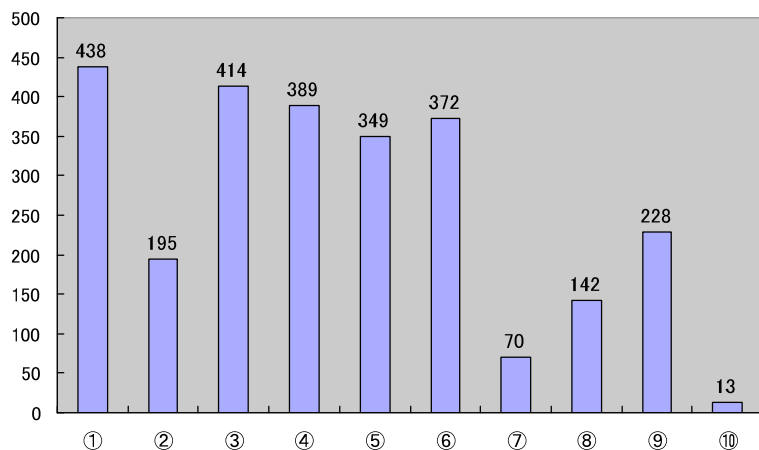
問 18. あなたはリテラシーの意味を知っていますか？



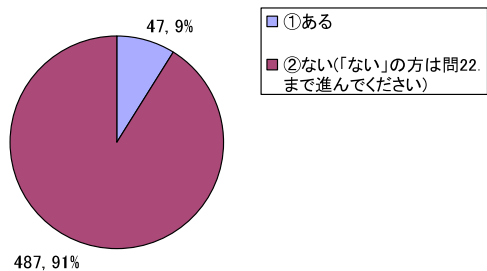
問 19. 過去に携帯電話やパソコンの安全な利用方法についての教育を受けたことがありますか？



問 20. あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？



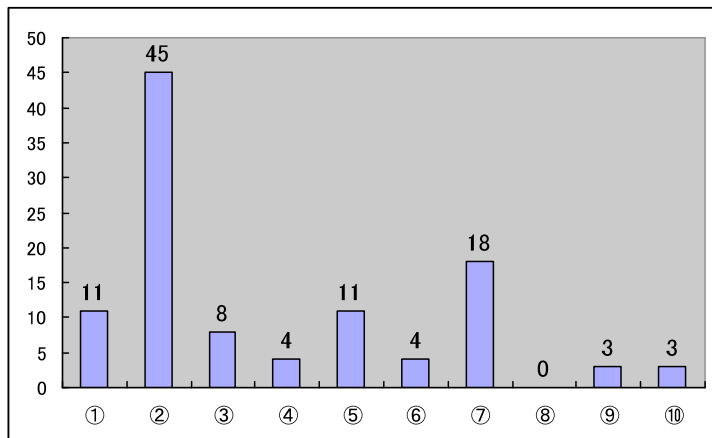
問 21. 携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？



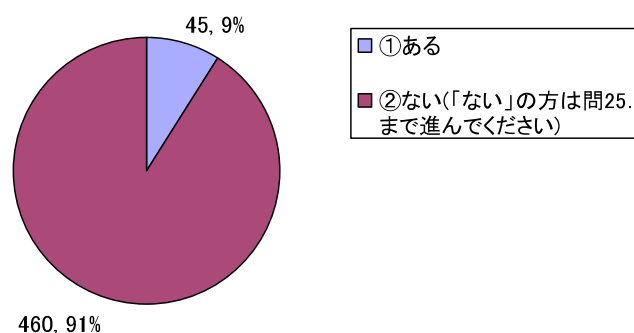
問 22. 問 21.で「はい」と答えた方にお聞きし

問 23. パソコンから、あなたの考える「有害

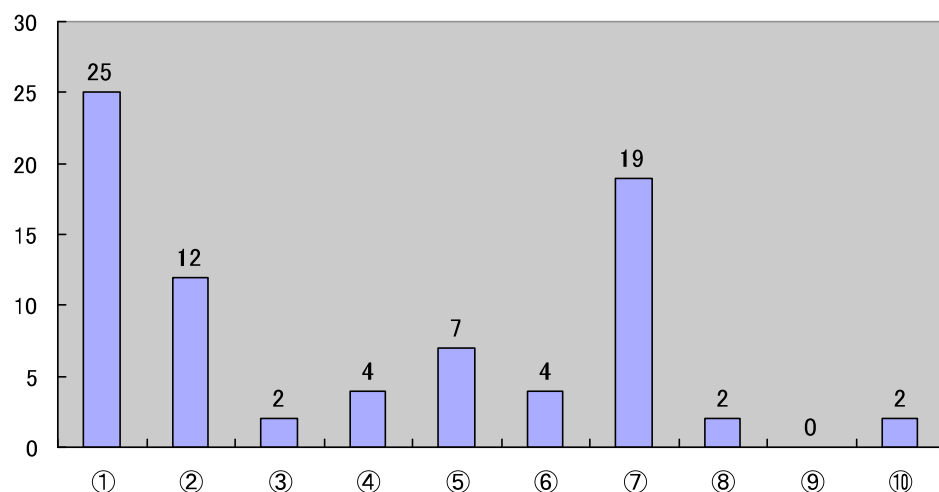
ます。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



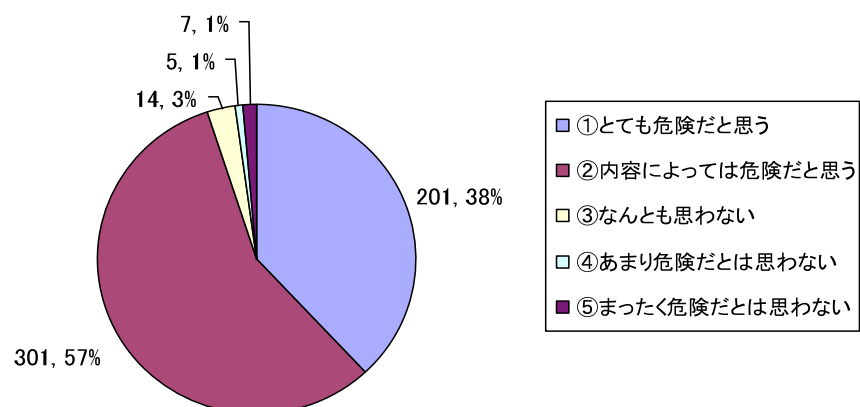
サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？



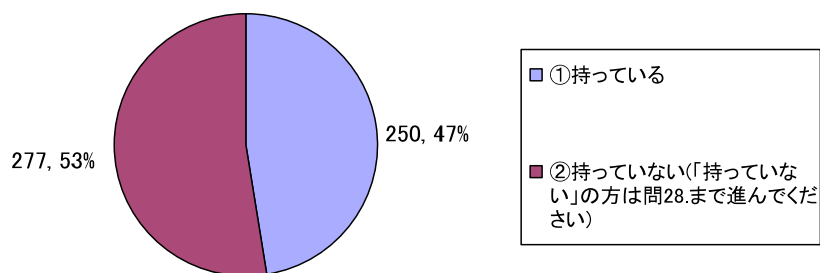
問 24. 問 23 で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



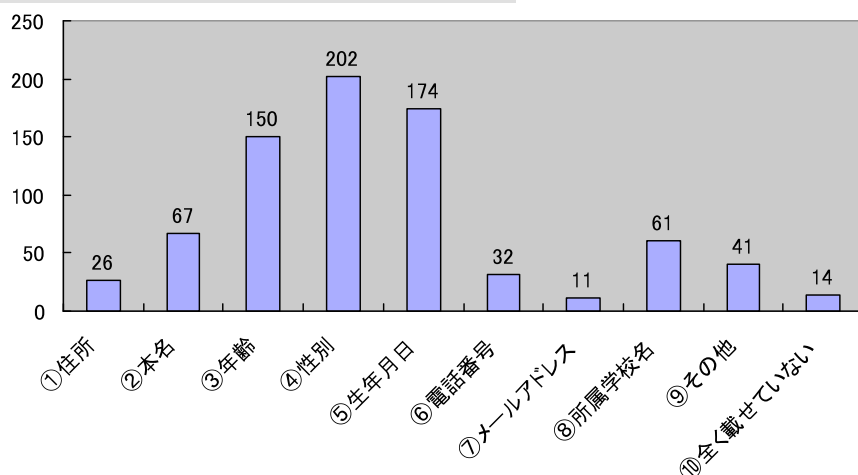
問 25. あなたは「有害サイト」を危険だと思いますか？



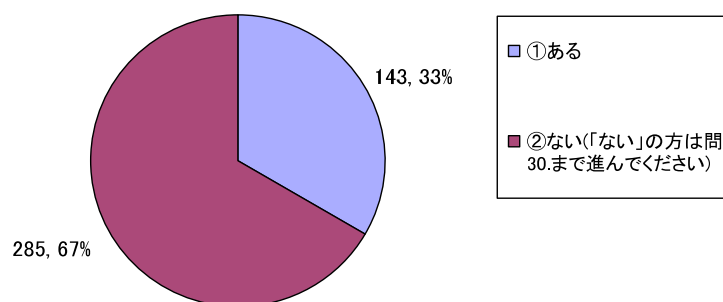
問 26. 自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っていますか？



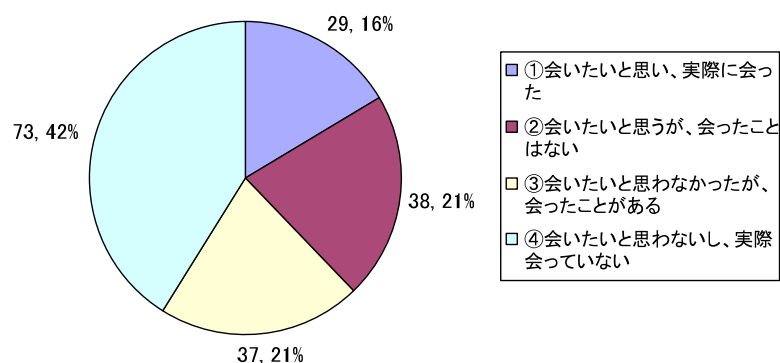
問 27. 問 26.で「はい」と答えた方にお聞きします。そこではどの個人情報をご載せていますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



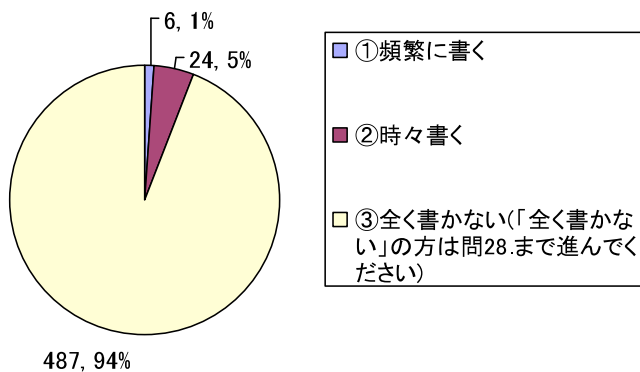
問 28. インターネットを通じて直接会ったことのない人と知り合ったことがありますか？



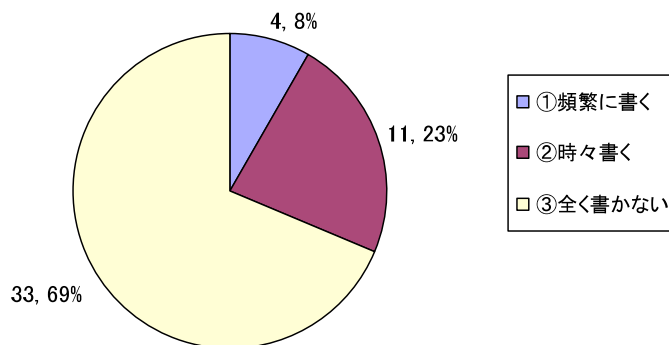
問 29. その人と、会いたいと思いますか？



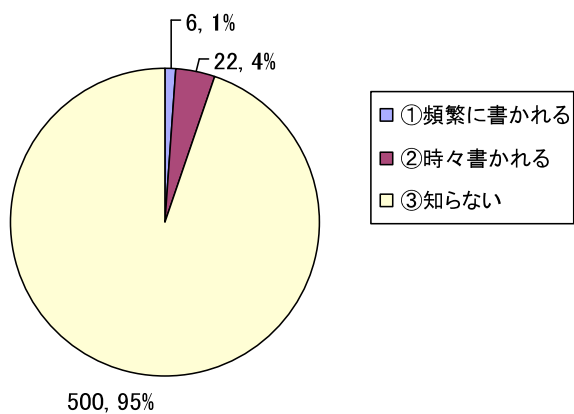
問 30. インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？



問 31. 問 30.で①、②と答えた方にお聞きします。インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

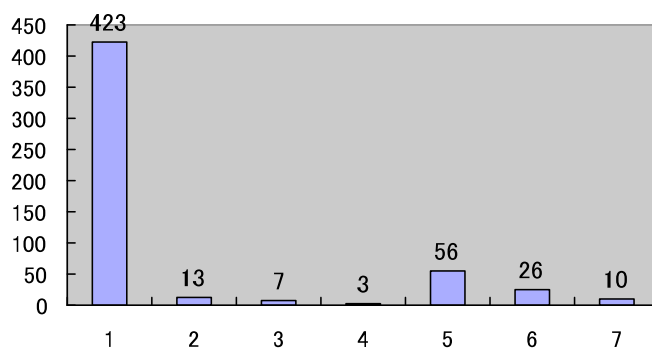


問 32. インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？



問 33. あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいいますか？

当てはまるもの全てにマークしてください。



Ⅲ1.2. 明倫高校全体のまとめ

携帯電話について

問 4. 携帯電話を何台使用していますか？

約 90%の学生が携帯電話を所持しており、その中でも 3%の学生が携帯電話を 2 台所有している。また、「持っていない」と答えた学生は約 10%であった。

一年生と二年生、男子学生と女子学生の比較では、どれも大きな差は出ていない。

問 5. 携帯電話をいつ持ち始めましたか？

約 70%の学生が中学卒業を機に携帯電話を持ち始めている。これは義務教育期間終了によって保護者が所持を許可するためと思われるが、一方で約 20%の学生が小学校卒業から、2%の学生が小学校入学から携帯電話を持ち始めている。

一年生と二年生との比較では、一年生のほうが「中学校入学から」と「中学校卒業から高校入学まで」の割合が多い。男子学生と女子学生との比較では、女子学生のほうが早く持ち始める傾向にある。

問 6. 携帯電話を主にどのような目的で使用していますか？

ほぼ全ての学生がメール機能を使っており、通話よりも多いことから、学生が通話使用よりもメール使用に重点を置いていることが分かる。また、web ページ閲覧や音楽の視聴、ゲームなどの項目も多く、多くの回答が見られ、携帯電話は学生の間で単なる通話・通信機器以上のものとなっていると言える。

男子学生と女子学生との比較では一年生男子生徒のゲーム使用とワンセグ利用が女子よりも多く回答されているのに対して、二年生男子生徒のこの項目の回答は低いものとなっている。

問 7. 一日平均でどのくらいの時間携帯電話でインターネットを利用していますか？

約 90%の学生が携帯電話からインターネットを利用しており、その大多数が利用時間 1 時間未満から 1 時間以上 2 時間未満であるが、20%の学生が 3 時間以上の利用をしている。

一年生と二年生の比較では、一年生より二年生が 1 時間以上利用の割合が多くなっている。また、男子学生と女子学生との比較では、女子のインターネット利用時間が男子学生より多い結果となっている。

問 8. 一日平均でどのくらい携帯電話からメールを送信していますか？

送信に対して約 40%の学生が一日平均 10 件未満と回答し、続いて 10 件以上 20 件未満が約 20%となっている。

一年生と二年生との比較では二年生のほうが 30 件以上の割合が多く、男子学生と女子学生との比較では、女子学生のほうが男子学生よりメールの送信回数が多いという結果になっている。

問 9. 一日平均でどのくらい携帯電話でメールを受信していますか？

受信に対して約 40%の学生が一日平均 10 件未満と回答し、続いて 10 件以上 20 件未満が約 20%となっている。

一年生と二年生との比較では大きな差はないものの、男子学生と女子学生との比較では、女子学生のほうが男子学生よりメールの受信回数が多いという結果になっている。

問 10. 一日平均でどのくらい携帯電話から電話をかけますか？(通話回数)

96%の学生が 10 回未満と回答しており、多くの学生がメールと同程度かそれ以下の利用しかしていない。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との差は見られない。

問 11. 一日平均でどのくらい携帯電話に電話がかかってくるか？

95%の学生が10回未満と回答しており、通話よりもメールによる情報伝達が学生の間で主となっている。
ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との差は見られない。

問 12. あなたは自分の一ヶ月の携帯電話の請求額がどれくらい知っていますか？

約90%の学生が自身の携帯電話の一ヶ月の請求額を知っている。

男子学生の一年生と二年生との比較では大きな差はないものの、女子学生の一年生と二年生では、二年生のほうが「知らない」と答えた割合が多い。

問 13. あなたの使っている携帯電話の料金は誰が支払っていますか？

問12で「知っている」と答えたほぼ全ての学生が自身で携帯電話の料金を払っており、保護者から独立した形で携帯電話を使用している。

一年生と二年生との比較では二年生のほうが「自分」と回答した割合が高くなっている。また、女子学生は一年生と二年生では割合が変わらないが、男子学生の一年生と二年生との比較では、二年生のほうが「自分」と回答した割合が高くなっている。

問 14. 課金・有料サイト(提供されているコンテンツを利用する際に料金がかかるサイト)を利用していますか？

約40%の学生が課金有料サイトを利用している。

一年生と二年生との比較では二年生のほうが「利用していない」という回答が割合的に多い。

問 15. 学校ではいつ携帯電話を使用していますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

85%の学生が休憩時間や放課後などの私的時間に携帯電話を使用している。その一方で、9%の学生が授業中に、3%の学生がホームルーム時間などの時間に使用している。

一年生と二年生との比較では二年生のほうが「放課後」に利用する割合が高くなっている。また、男子学生のほうが女子学生より「放課後」と回答する割合が高く、女子学生のほうが男子学生より「休憩時間」と回答する割合が高い。

問 16. 公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？

90%の学生が公共の交通機関の中で携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりすることを行っており(その内66%の学生が「必ずしている」と回答している)、全くしない学生が4%となっている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生とに大きな差は見られない。

問 17. あなたはリテラシーという言葉を知っていますか？

ほとんどの学生がリテラシーという言葉を知っていない。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生とに大きな差は見られない。

問 18. あなたはリテラシーの意味を知っていますか？

ほとんどの学生がリテラシーの意味を知らない。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生とに大きな差は見られない。

問 19. 過去に携帯電話やパソコンの安全な利用方法についての教育を受けたことがありますか？

携帯電話やパソコンの安全な利用方法については 66%の学生が過去に学んでいる。

一年生と二年生との比較では、一年生のほうが「ある」と答えた割合が高く、男子学生のほうが女子学生より「ある」と回答した割合が高い。

問 20. あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？

「アダルトサイトや出会い系サイト」、「暴力残虐画像を集めたサイト」、「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」、「犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）」の、一般的に危険だとされているものに多くの回答が集まったが、「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」は極度に低い数値を示している。

一年生と二年生では一年生のほうが「アダルトサイト」を回答する割合が多く、二年生では、「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」を回答する割合が多くなっている。

二年生の男子学生と女子学生では大きな差はないものの、一年生の男子学生と女子学生との比較では、男子学生が「アダルトサイト」を多く回答し、他の回答を引き離しているものの、女子学生の回答では、「アダルトサイト」よりも「出会い系サイト」や「暴力残虐画像を集めたサイト」、「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」、「犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）」の割合が高いものとなっている。

問 21. 携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

約 90%の学生が「ない」と回答したが、約 10%の学生は、自らがそのサイトを「有害サイト」とであると認識した上ですすんでアクセスしている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 22. 問 21.で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

全体として「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」へのアクセスが多い。

一年生ではこの傾向が強く、二年生では「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」と「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」への回答とが二分している。

問 23. パソコンから、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

約 90%の学生が「ない」と回答したが、約 10%の学生は、自らがそのサイトを「有害サイト」とであると認識した上ですすんでアクセスしている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 24. 問 23 で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

携帯電話からは、「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」へのアクセスが多かったが、パソコンは「アダルトサイト」などへのアクセスが多い結果となっている。また、「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」も多いものとなっている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 25. あなたは「有害サイト」を危険だと思いますか？

この質問に対して約 40%の学生が有害サイトに対して「とても危険」だと回答している。また、「内容によっては危険だと思う」との回答を 57%の学生がしており、「有害サイト」だと言うことで一概に全てが危険だといえないのではないかという考えが現れている。

一年生と二年生では大きな差はみられないものの、女子学生に関しては、一年生より二年生のほうが、「とても危険だ」と思うと回答した割合が多くなっている。

携帯電話・パソコンによるインターネット利用についてお聞きします

問 26. 自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っていますか？

約半数の学生が自身の web ページを持っており、男子学生の一年生で 4 倍、二年生で 5 倍の数を女子学生の回答数が占めている。つまり、web ページを持っているのは女子学生が多いということである。また、一年生と二年生では大きな差はみられない。

問 27. 問 26.で「はい」と答えた方にお聞きします。そこではどの個人情報を載せていますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

多くの学生が、「年齢」や「性別」、「生年月日」など、それだけでは個人を特定し難い情報を公開しているが、中にはそれに加え「本名」、「所属学校名」、「住所」も公開している学生もいる。

一年生と二年生では、二年生のほうが「生年月日」の回答が多い。男子学生と女子学生との比較では、男子学生は「年齢」の回答が多く、女子学生は「生年月日」の公開が多い。

問 28. インターネットを通じて直接会ったことのない人と知り合ったことがありますか？

約 70%の学生が「ない」と回答したが、約 30%の学生は「ある」と回答しており、インターネットを通じて、顔見知りでない人間との接触が起こっている。

男子学生に関して、一年生より二年生のほうが「ある」の割合が少なく、女子学生においては一年生より二年生のほうが「ある」の回答が増加している。また、男子学生が一年生二年生共に「ある」の割合が 20%前後であるのに対して、女子学生は一年生二年生共に 40%を超え、二年生の女子に関しては、約 70%が「ある」と回答している。

問 29. その人と、会いたいと思いますか？

約 60%の学生が「会いたいと思わない」と回答し、その中で約 40%の学生が「会いたいと思わないし、実際会っていない」と回答した。しかし一方で、会いたいと思う学生が 37%、そして実際にあったことのある学生が 37%となっている。

一年生と二年生では、二年生のほうが「会いたいと思わなかったが、会ったことがある」と回答する学生の割合が多い。男子学生と女子生徒とでは女子学生のほうが「会いたい」という回答が多い。

問 30. インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

約 90%の学生が全く書かないと答えている。しかし一方で 8%の学生が「書く」と答え、その中の 2%は「頻繁に書く」と答えている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 31. 問 30.で①、②と答えた方にお聞きします。

インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

N 数が少ないが、70%が「全く書かない」と答えている。しかし、約 30%が書き込んでおり、内 8%が「頻繁に書く」としている。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 32. インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？

95%の学生が「わからない」と回答したが、5%の学生は「時々書かれる」「頻繁に書かれる」と、自身への悪口
の存在を確認している。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

問 33. あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいますか？

当てはまるもの全てにマークしてください。

大多数の学生が周りでの被害がないとしているが、一方で約 56 人の学生が「友人が被害に会った」と回答して
いる。

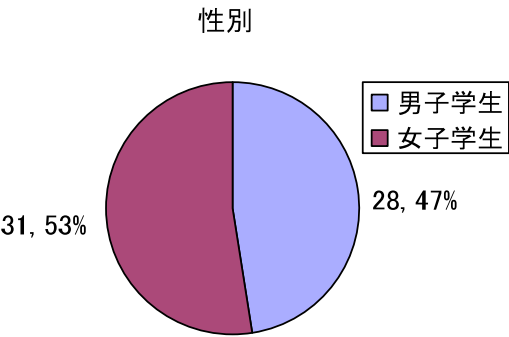
ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との間に大きな差はみられない。

Ⅲ.2. 野々市学生と他地域学生との比較

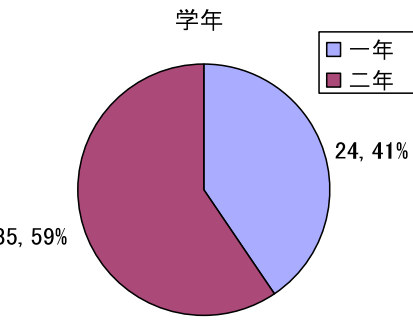
Ⅲ2.1. 集計グラフ

基本情報

問 1. 性別をお答え下さい(N=541)

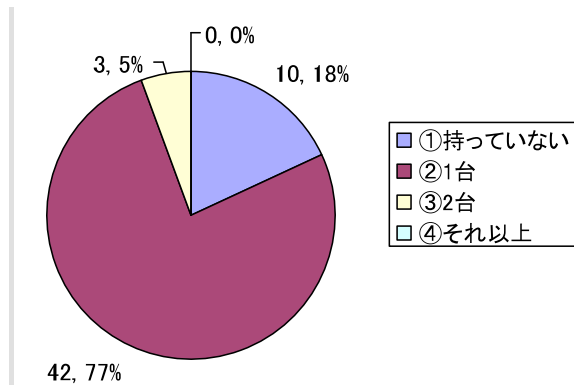


問 2. 学年をお答え下さい(N=541)

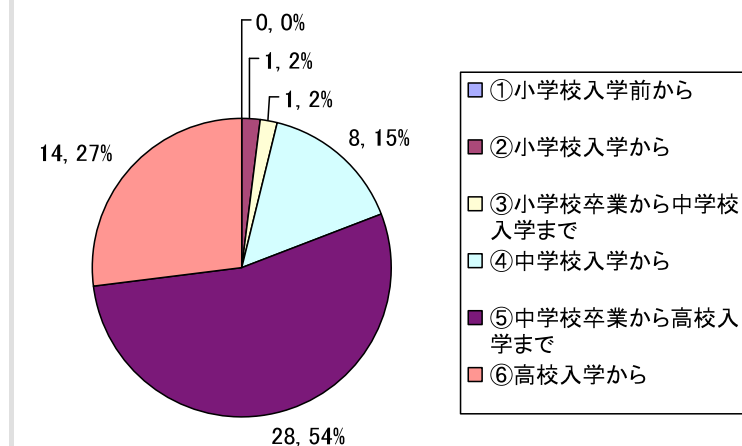


携帯電話について

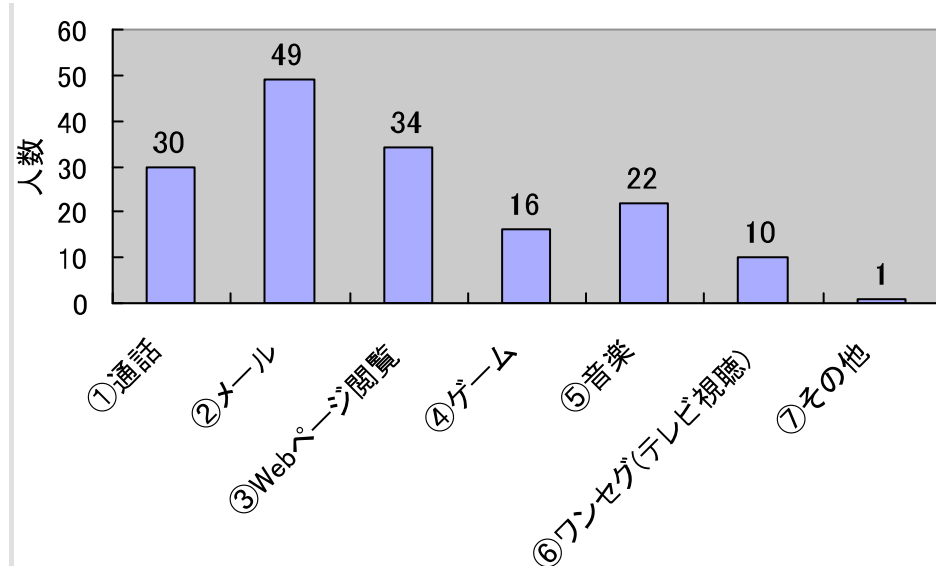
問 4. 携帯電話を何台使用していますか？



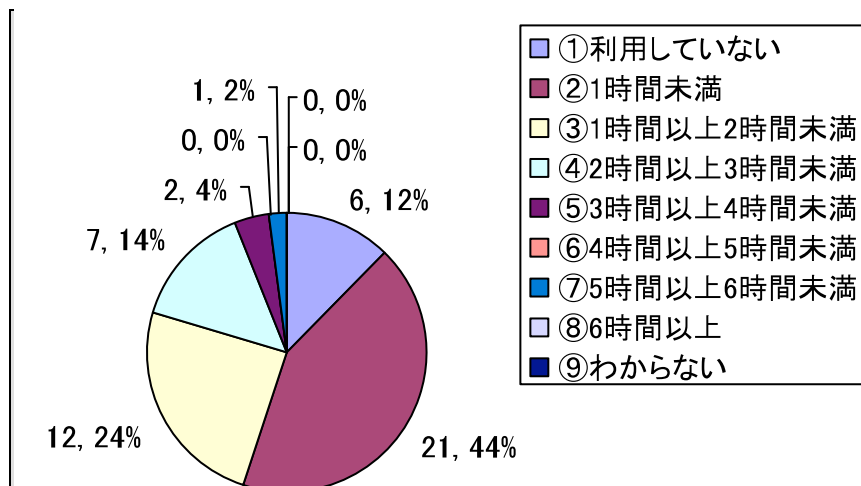
問 5. 携帯電話をいつ持ち始めましたか？



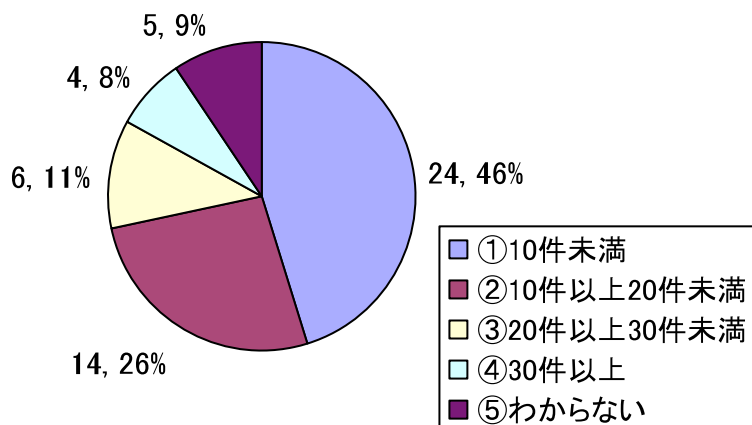
問 6. 携帯電話を主にどのような目的で使用していますか？



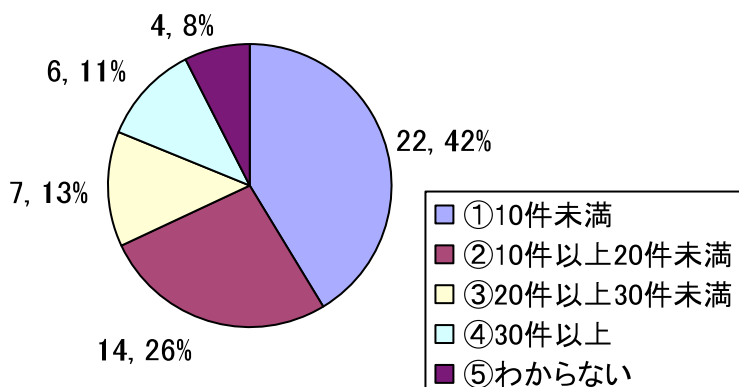
問 7. 一日平均でどのくらいの時間携帯電話でインターネットを利用していますか？



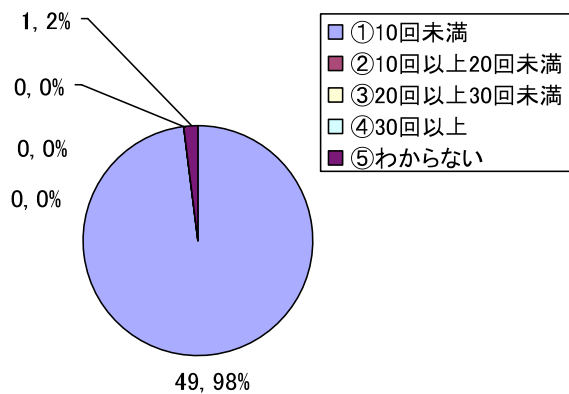
問 8. 一日平均でどのくらい携帯電話からメールを送信していますか？



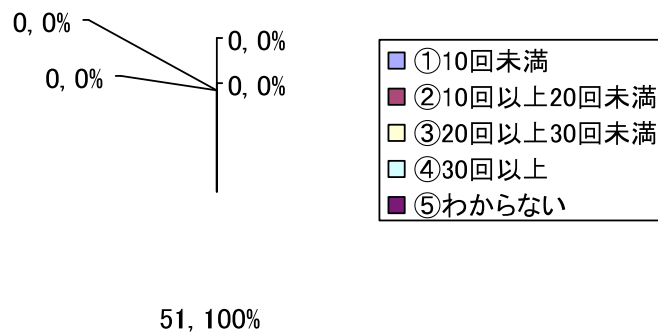
問 9. 一日平均でどのくらい携帯電話でメールを受信していますか？



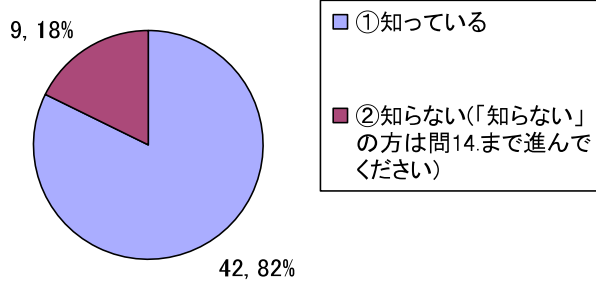
問 10. 一日平均でどのくらい携帯電話から電話をかけますか？(通話回数)



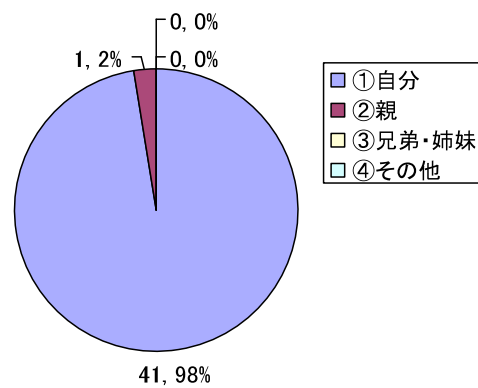
問 11. 一日平均でどのくらい携帯電話に電話がかかってきますか？



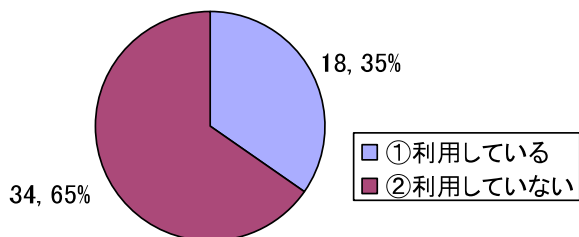
問 12. あなたは自分の一ヶ月の携帯電話の請求額がどれくらいか知っていますか？



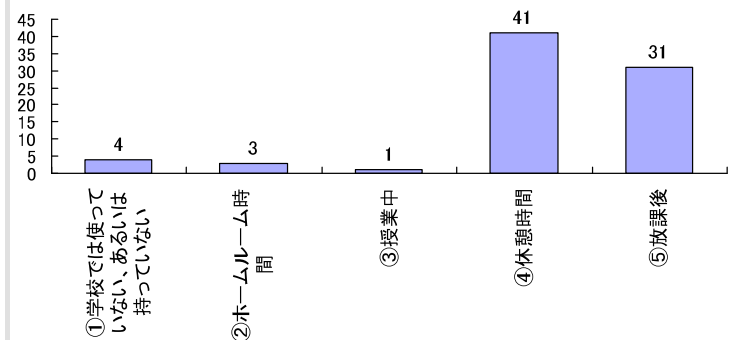
問 13. あなたの使っている携帯電話の料金は誰が支払っていますか？



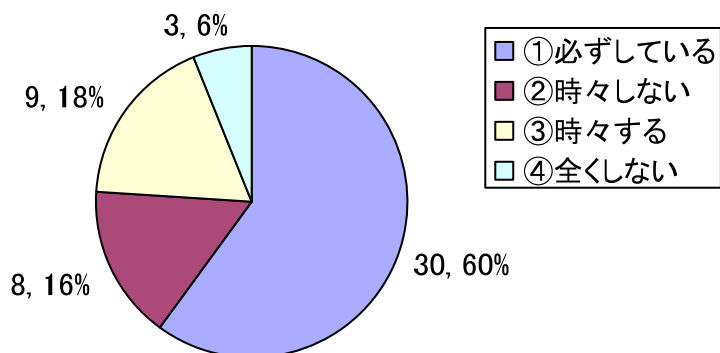
問 14. 課金・有料サイト(提供されているコンテンツを利用する際に料金がかかるサイト)を利用していますか？



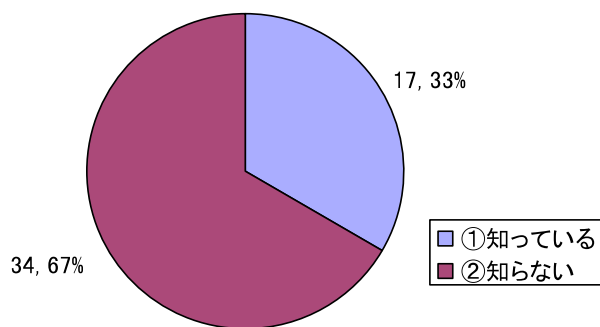
問 15. 学校ではいつ携帯電話を使用していますか？
当てはまるもの全てにマークしてください。



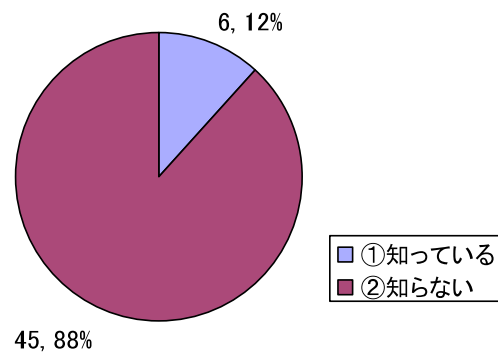
問 16. 公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？



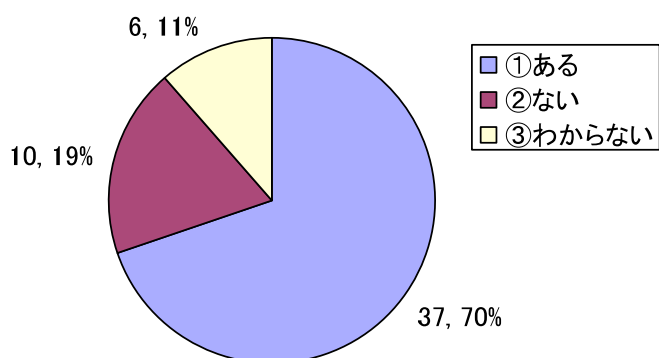
問 17. あなたはリテラシーという言葉を知っていますか？



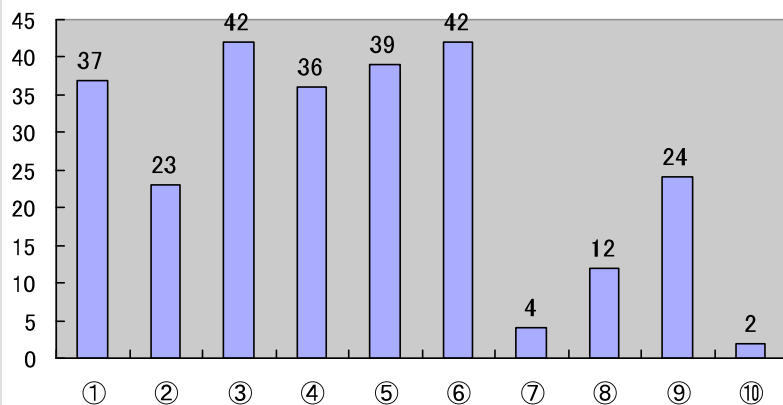
問 18. あなたはリテラシーの意味を知っていますか？



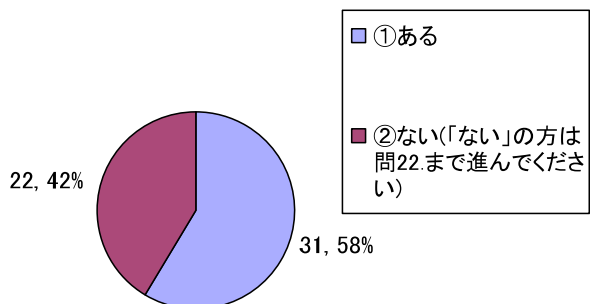
問 19. 過去に携帯電話やパソコンの安全な利用方法についての教育を受けたことがありますか？



問 20. あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？



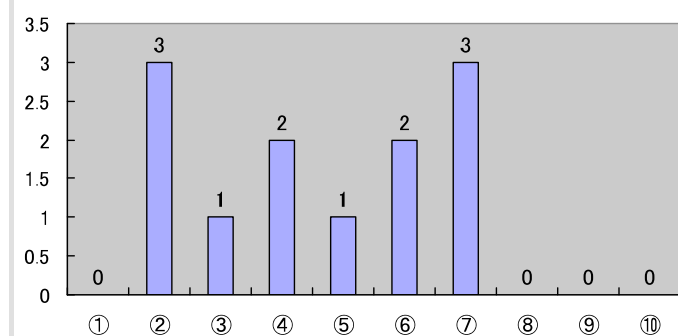
問 21. 携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？



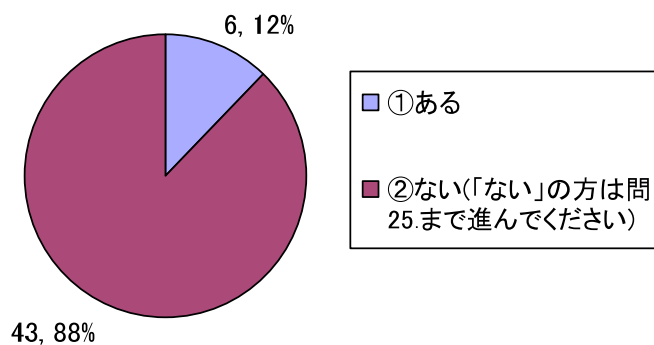
問 22. 問 21.で「はい」と答えた方にお聞きし

問 23. パソコンから、あなたの考える「有害サ

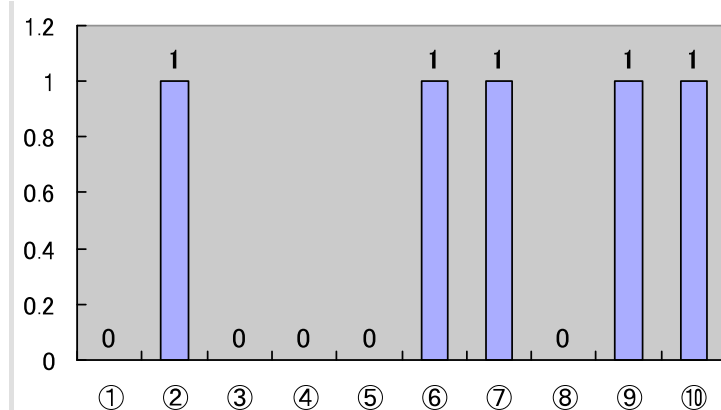
ます。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



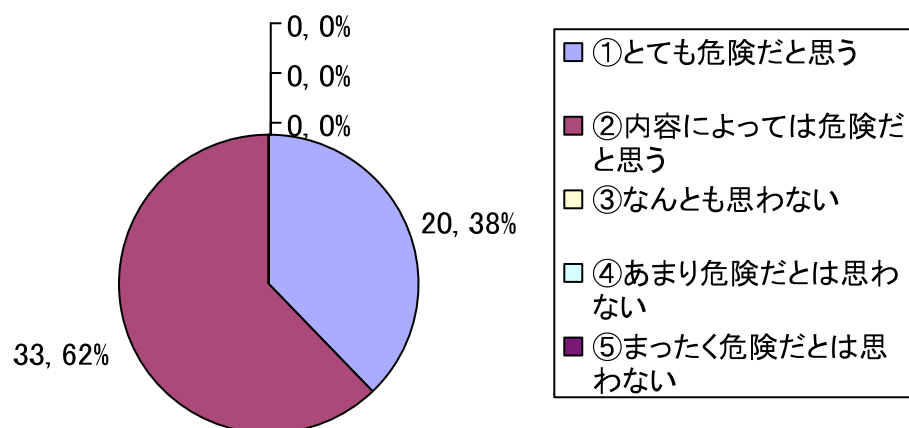
イト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？



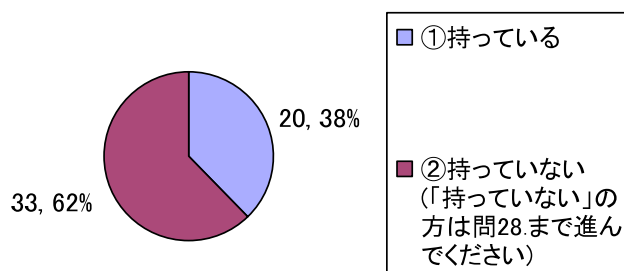
問 24. 問 23 で「はい」と答えた方にお聞きます。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



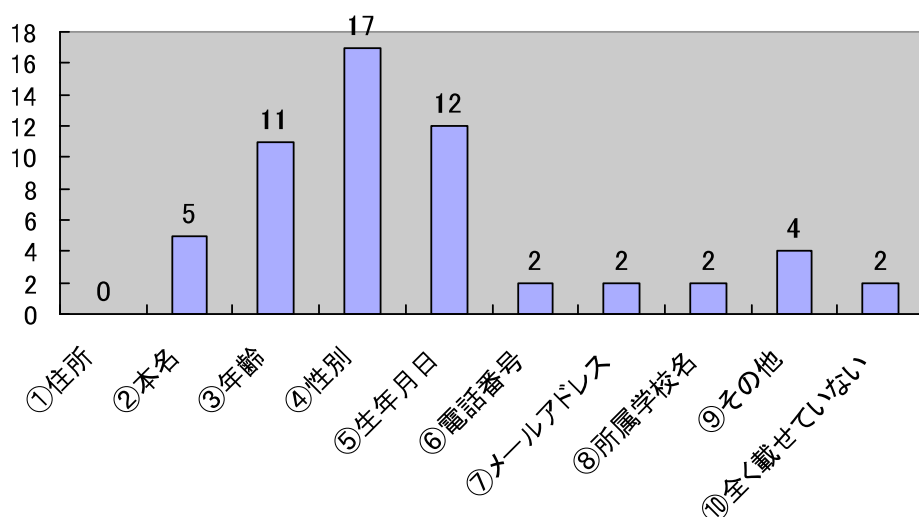
問 25. あなたは「有害サイト」を危険だと思いますか？



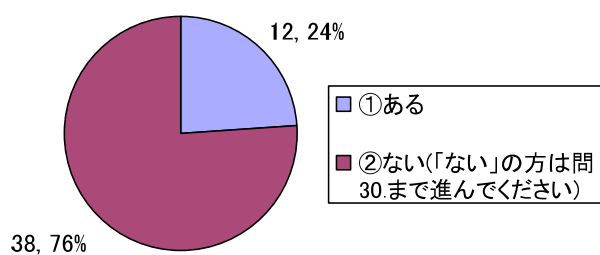
問 26. 自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っていますか？



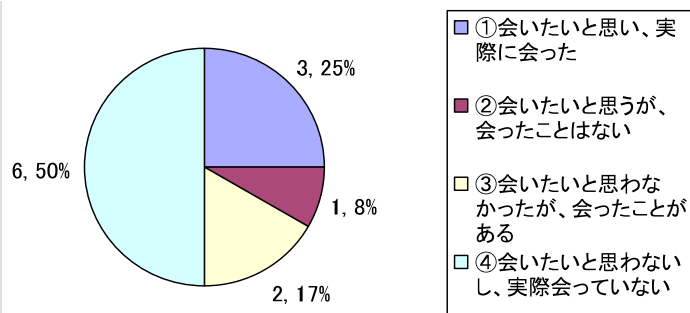
問 27. 問 26.で「はい」と答えた方にお聞きします。そこではどの個人情報を載せていますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



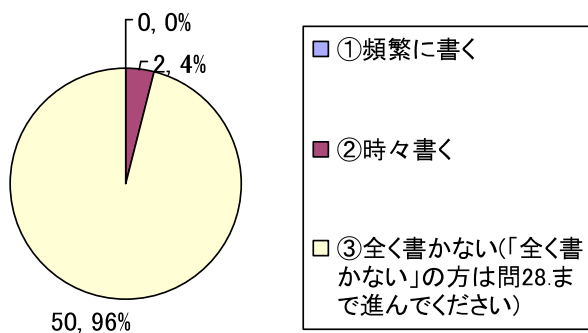
問 28. インターネットを通じて直接会ったことのない人と知り合ったことがありますか？



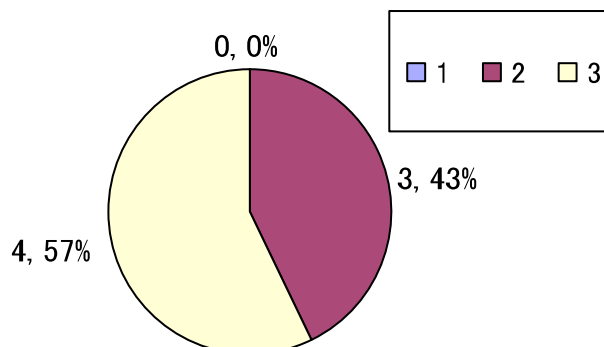
問 29. その人と、会いたいと思いますか？



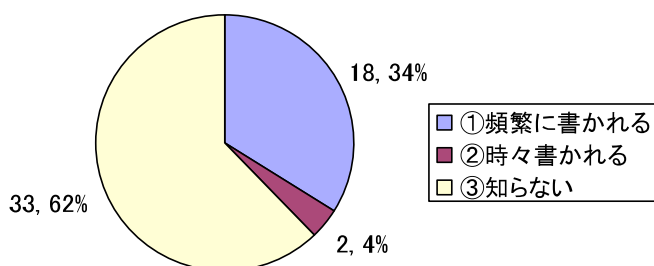
問 30. インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？



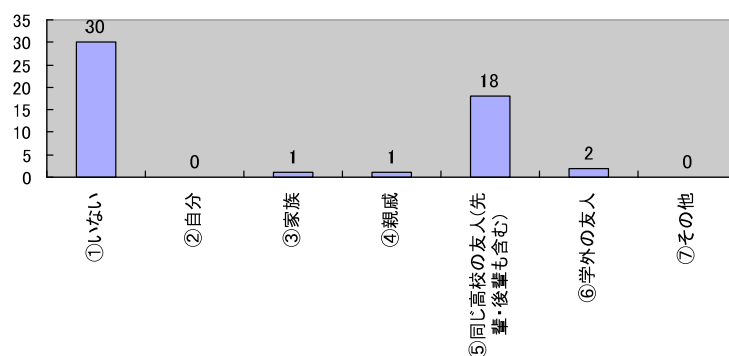
問 31. 問 30.で①、②と答えた方にお聞きします。インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？



問 32. インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？



問 33. あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいいますか？当てはまるもの全てにマークしてください。



Ⅲ.2.2. 野々市学生と他地域学生との比較のまとめ

携帯電話について

問 4. 携帯電話を何台使用していますか？

約 90%の学生が携帯電話を所持しており、野々市と他地域ではどちらも大きな差は出ていない。

問 5. 携帯電話をいつ持ち始めましたか？

約 70~80%の学生が中学卒業を機に携帯電話を持ち始めている。

野々市と他地域との比較では、野々市のほうが「高校入学から」の割合が若干多い。

問 6. 携帯電話を主にどのような目的で使用していますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 7. 一日平均でどのくらいの時間携帯電話でインターネットを利用していますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 8. 一日平均でどのくらい携帯電話からメールを送信していますか？

野々市と他地域の比較では、野々市学生のほうが若干「10 件以上 20 件未満」が多く、それ以上の回答が割合的に他地域学生より少ない。

問 9. 一日平均でどのくらい携帯電話でメールを受信していますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 10. 一日平均でどのくらい携帯電話から電話をかけますか？(通話回数)

96%の学生が 10 回未満と回答しており、多くの学生がメールと同程度かそれ以下の利用しかしていない。

ここでは一年生と二年生、男子学生と女子学生との差は見られない。

問 11. 一日平均でどのくらい携帯電話に電話がかかってくるか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 12. あなたは自分の一ヶ月の携帯電話の請求額がどれくらいか知っていますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 13. あなたの使っている携帯電話の料金は誰が支払っていますか？

野々市と他地域の比較では、野々市の 1 名を除くほぼ全ての学生が「自分が料金を支払っている」としている。

問 14. 課金・有料サイト(提供されているコンテンツを利用する際に料金がかかるサイト)を利用していますか？

約 40%の学生が課金有料サイトを利用している。

野々市と他地域との比較では、野々市のほうが「利用していない」という回答が割合的に多い。

問 15. 学校ではいつ携帯電話を使用していますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 16. 公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 17. あなたはリテラシーという言葉を知っていますか？

野々市と他地域の比較では、野々市町のほうが「知っている」と回答した割合が若干高い。

問 18. あなたはリテラシーの意味を知っていますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 19. 過去に携帯電話やパソコンの安全な利用方法についての教育を受けたことがありますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 20. あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？

野々市と他地域との比較では、野々市のほうが他地域より「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」「犯罪や非行を助長するようなサイト」を回答する学生の割合が多い。

問 21. 携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

他地域では約 10%の学生が「ある」と回答したが、野々市学生では野々市学生の約 60%が「ある」と答えている。

問 22. 問 21.で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

野々市学生の割合は、「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」と「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト（ウェブチャット、掲示板など）」が 3 名、「暴力残虐画像を集めたサイト」「犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）」が 2 名、「出会い系サイト」「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」が 1 名となっている。

問 23. パソコンから、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

野々市と他地域の比較では、野々市町のほうが「ない」と回答した割合が若干高い。

問 24. 問 23 で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

野々市学生の選択は、「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」「犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）」「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト（ウェブチャット、掲示板など）」「ギャンブル関係のサイト（ギャンブル一般）」「その他」で、どれも 1 名ずつである。

問 25. あなたは「有害サイト」を危険だと思いますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

携帯電話・パソコンによるインターネット利用についてお聞きします

問 26. 自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っていますか？

野々市と他地域との比較では、野々市のほうが「持っていない」と回答した割合が若干多い。

問 27. 問 26.で「はい」と答えた方にお聞きします。そこではどの個人情報を載せていますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 28. インターネットを通じて直接会ったことのない人と知り合ったことがありますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 29. その人と、会いたいと思いますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 30. インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 31. 問 30.で①、②と答えた方にお聞きします。

インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

N 数が少ないが、野々市学生で「頻繁に書き込む」という回答は 0 である。

問 32. インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？

野々市と他地域の比較では、大きな差は出ていない。

問 33. あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいますか？

当てはまるもの全てにマークしてください。

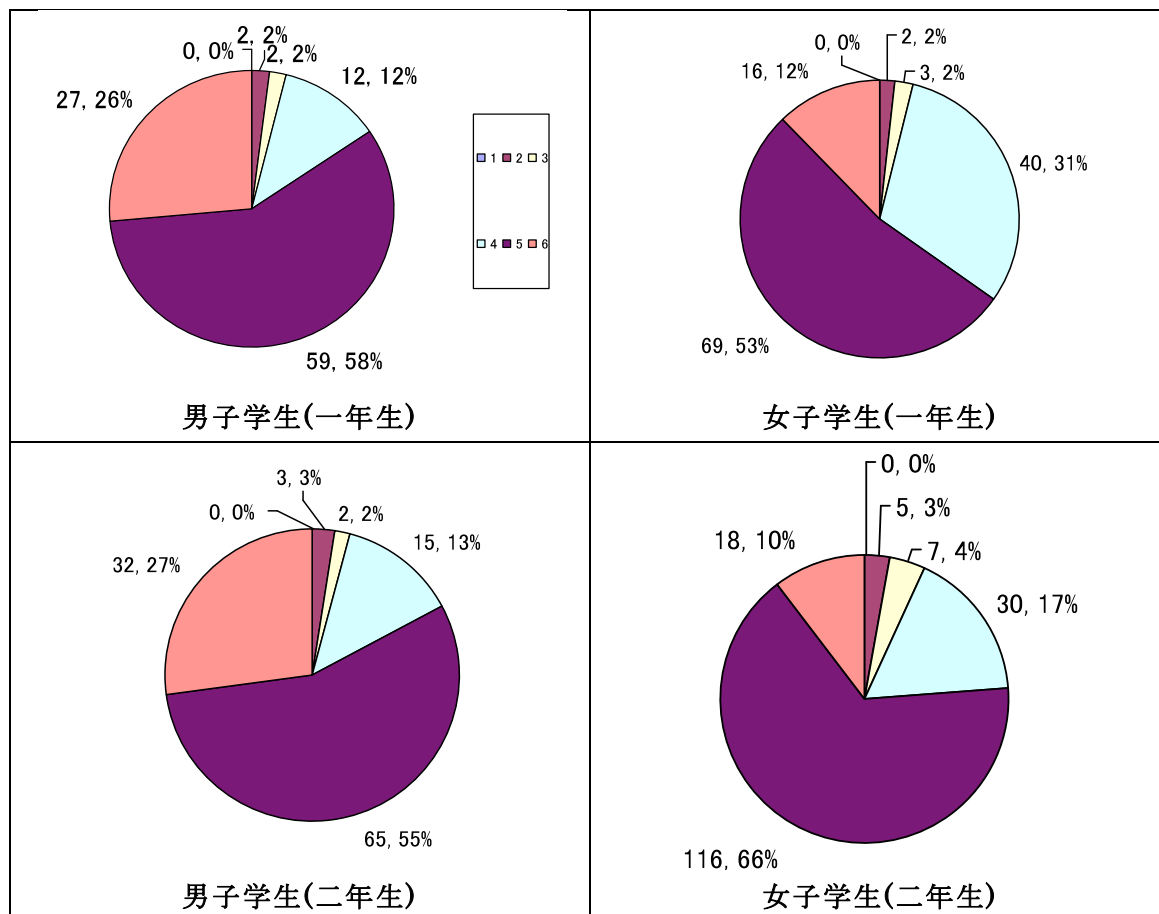
野々市と他地域との比較では、野々市学生の 35%が「同じ高校の友人(先輩・後輩も含む)」が被害にあったと回答している。

IV まとめ

IV.1. アンケートについてのまとめ

IV.1.1. 明倫高校生の携帯電話使用実態

携帯電話が日本社会に登場して 20 年が経過した。携帯電話は「ケータイ」と呼び親しまれ、社会に深く根付いたといえる⁶。特に高校生の所持率が 90%以上という点からみても、携帯電話は若者にとってあって当たり前のものとして扱われており、これは今回の調査対象である明倫高校にもいえる。明倫高校の一・二年生の所持率は 87%であり、おそらく三年生も含めると、それ以上の数値になるのではないかと考えられる。また、全国的にみられる小学生・中学生の所持率増加に対しても、アンケートの間 5.にて 100 名近い学生が中学校入学から所持していると回答しており、小学生からの所持も若干数みられる。また、男女関係でこれをみると、女子学生の方が男子学生よりも携帯電話を持ち始める時期が早いことがわかる。



若者の間で浸透している携帯電話であるが、その使用においても、大人とは別の特徴が

⁶ 例えば日常生活において人と人が出会うとき(そしてその後も関係継続が望まれている場合)、人はまず自身のケータイのアドレスを交換するようになっている。特に若者の間で「アドレス」といえば住所ではなく、「ケータイのアドレス」のことを指し示すほどである。

アンケートより浮かび上がっている。小桧山と同じように、石野純也も「大人にとってのケータイは、あくまで携帯電話である。言い換えるなら、それは、通話の道具だ。だが、ケータイは、…(中略)…今ではパソコンでも電話でもない、まったく新しいツールと呼べるものになっている」という見解を示しており[石野,2008⁷]、このことは、携帯電話の主な使用項目をたずねたアンケート問 6.においてもあらわれている⁸。また、授業時間内や休憩時間内においても携帯電話を利用しているというアンケート結果から、その利用は学校在学時間も頻繁に利用されていることがわかる。しかしその一方で、問 16 の「公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？」という問いに対しては、66%の学生が必ずマナーモードにしていると答えており、学生たちの間で「公共」という彼ら自身の「私的空間」とは違う環境への配慮が伺える。

IV.1.2. 「有害サイト」

携帯電話は確かに彼らにとって「便利」で「楽しい」ツールであることは間違いない。しかしながら、それがいつでも彼らにとって「プラスの要素」だけを見せ続けているわけではない。その一つの例として「有害サイト」という問題がある。

「有害サイト」には現在、一本化された定義があるわけではないが、特に子供・児童に閲覧させたくない内容や情報が掲載されているものや、匿名の誹謗中傷行為を助長させるきっかけを与えかねないサイトのことを指すことが多い。また、有害サイトの種類として以下の分類がなされている（ネットスター社による分類⁹）。

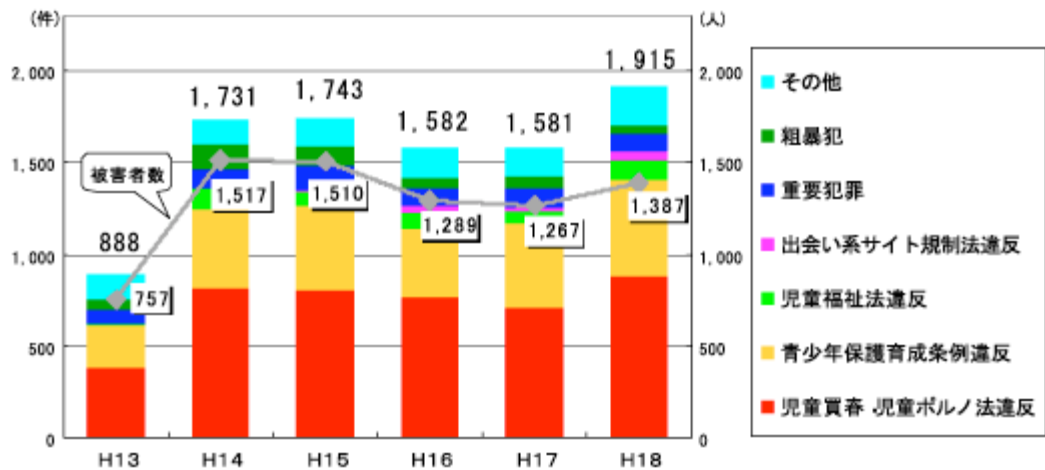
- ・ 不法（違法と思われる行為、違法と思われる薬物、不適切な薬物利用）
- ・ 主張（軍事・テロ・過激派、武器・兵器、誹謗・中傷、自殺・家出、主張一般）
- ・ アダルト（性行為、ヌード画像、性風俗アダルト検索・リンク集）
- ・ セキュリティ（ハッキング、不正コード配布、公開プロキシ）
- ・ ギャンブル（ギャンブル一般）
- ・ 出会い（出会い・恋人紹介、結婚紹介）
- ・ グロテスク（グロテスク）
- ・ オカルト（オカルト）
- ・ コミュニケーション（ウェブチャット、掲示板、IT 掲示板）
- ・ ライフスタイル（同性愛）
- ・ 宗教（伝統的な宗教、宗教一般）
- ・ 政治活動・政党（政治活動・政党）
- ・ 成人嗜好（娯楽誌、喫煙、飲酒、アルコール製品、水着・下着・フェチ画像、文章による性的表現、コスプレ）

⁷ 石野純也,2008『ケータイチルドレン』,ソフトバンク クリエイティブ株式会社.

⁸ 集計結果では電話機能以上にメール機能が使われている。そして電話機能と同程度に web ページ閲覧や、音楽機能が選択されている。

⁹ ネットスター社,2008「カテゴリー一覧」(<http://www.netstar-inc.com/product/category.html>, 2008.2.15)

このように分類される有害サイトにおける被害の現状であるが、特に携帯電話からのアクセスが大多数を占める出会い系サイトでの被害状況が特徴的である。警視庁によれば¹⁰平成18年中の出会い系サイトに関連した事件として警視庁に報告のあった件数は1915件と、前年（1581件）と比べて21.1%の増加となっている(図4.参照)。また、検挙件数の約8割が18歳未満の児童に関わる事犯であり(表1.参照)、出会い系サイトへのアクセス手段として約96.5%が携帯電話を使用したものであるとしている(表2.参照)。



出所:警視庁 サイバー犯罪対策 広報資料

図 4.出会い系サイトに関連した事件の検挙件数

(人)				
	小学生	中学生	高校生	計
計	4(+1)	356(+9)	496(+19)	856(+29)
女性	4(+1)	354(+9)	494(+21)	852(+31)
男性	0(±0)	2(±0)	2(-2)	4(-2)

() は前年比

出所:警視庁 サイバー犯罪対策 広報資料

表 1.被害者のうち小学生・中学生・高校生の数(平成17年)

(件)			
	H16	H17	H18

¹⁰ 警視庁,2007「あぶない!出会い系サイト」(<http://www.npa.go.jp/cyber/deai/data/index.html>,2008.2.15)

被害者		1、289	1、267	1、387
	携帯電話	1239(96.1%)	1216(96.0)	1339(96.5%)
	パソコン	50(3.9%)	51(4.0%)	48(3.5%)
	うち児童	1085	1061	1153
	携帯電話	1046(96.4%)	1023(96.4%)	1114(96.6%)
	パソコン	39(3.6%)	38(3.6%)	39(3.4%)

出所:警視庁 サイバー犯罪対策 広報資料

表 2.被害者の出会い系サイトへのアクセス手段

上記のような有害サイトに対して、有効な手段と考えられる一つの方法が、フィルタリングサービスである。フィルタリングとは、インターネット上のウェブページ等を一定の基準で評価判別し、選択的に排除する機能のことである。また、携帯電話におけるフィルタリングでは有害サイトへアクセスできないよう、携帯キャリアが行う施策のことを指す(親がフィルタリングサービスに申し込むことにより、子どもの携帯から、出会い系サイトなどの有害サイトにアクセスできないようにするサービス)¹¹。このときは、申し込み無料であり、契約者が 20 歳未満の場合は、親権者の許可なく解約することはできない。

しかし、総務省の行った「平成 18 年度電気通信サービスモニタに対する第 2 回アンケート調査」によれば¹²、携帯電話会社が提供する有害サイトアクセス制限サービスの認知状況は、「よく知っている」が 12.6%、「聞いたことはある」が 53.3%、「知らない」が 34.1%となっており[総務省、2006]、有害サイトアクセス防止サービスを「聞いたことがある」程度の認知状況で、(よく知っているが約 1 割程度) まだまだ認知度が低いというのが現状である。

IV.1.3. 学生の日常と web ページ

では、高校生は有害サイトをどのように捉えているのだろうか。アンケートの間.25 において、95%の学生がその危険性を認めている。特に「アダルトサイトや出会い系サイト」、「暴力残虐画像を集めたサイト」、「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」、「犯罪や非行を助長するようなサイト(犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど)」などの、一般的に危険だとされているものの回答数が高く、ほとんどの学生がこれを選択している。しかしながら、「わかりにくい課金制度のあるサイト(音楽ダウンロードサイトなど)」や「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」については回答数が低い。これはおそらく彼らの多くがこれを利用しているため、危険性を認識しにくくなっているためではないかと考えられる。また、その危険性を認知した上ですすんでアクセスしている学生も 10%近くいることもここに記しておく。その際、携帯からアクセスするサイトは「わかりにくい課金制度のあるサイト(音楽ダウンロードサ

¹¹ 財団法人インターネット協会、2007「フィルタリング、知っていますか?」

(<http://www.iajapan.org/filtering/leaflet2006.html>,2008.2.15)

¹² 総務省,2007「フィルタリングについて」(http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070522_6_bs.pdf,2008.2.15)

イトなど)」や「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が多く、パソコンからアクセスするサイトは「アダルトサイト」や「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が多いという結果になっている。このどちらにも「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が入っていることは興味深い。おそらくこれは、彼らの中で「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」によって築かれている人間関係が存在していることを意味している。

それを示すかのように、回答した学生の半数が、自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っており、そこで見知らぬ他者との接点が生まれている。また、そこに住所や本名を載せている学生もあり、個人情報への危機感への甘さがみてとれる。Web ページの有無であるが、この回答において、男子学生全体では持っているとは回答したのが 20%であるに対して、女子学生全体ではその 70%近くが何らかの自身が管理する web ページを持っていると回答している。つまり、web ページを持っているのは圧倒的に女子学生であり、そのため問 20.の質問項目において⑦の「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が低い数値を示したのではないかと考えられる。

このような状況の中で、学生の個人情報管理はどのようになっているのか。複数回答でこれらの学生に回答を求めたところ、住所を載せている学生が 26 名、本名を載せている学生が 67 名、所属学校名を載せている学生が 61 名という結果になった。その一方でまったく載せていないという学生は 14 名しかいなかった。このように、「有害サイト」は危険であると認識しながらも、「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が有害サイトに入っているという認識が弱いため、個人情報を気軽に提示していると考えられる。しかしながら中には「本名を出すことで友達から自分のことを見つけてもらえやすくなる」という意見も出ており、ある程度「わかる人にはわかるような情報」を提示することで、多くの中から現実でつながりのある友人と web の中でも会いたいという心理も働いているものと考えられる。

IV.1.4. web 上の見知らぬ他者

Web サイトは自分の情報を気軽に発信できる場であるが、同時に見知らぬ他者とのつながりを持ちやすい場でもある。アンケートにおいても、「インターネットを通じて 直接会ったことのない人と知り合ったことがあるか」という問いに対して、33%の学生が「(実際に会ったことがある)」と回答している。これに関して一年生の男子学生の「ある」という回答が 21%、二年生の男子学生が 12%であるのに対して、女子学生では一年生が 43%、二年生で 69%という数値が出ている。男女の人数でみてみれば男子学生が 36 名、女子学生が 107 名という数であり、女子学生については、3 人に一人がインターネットを通じて、直接会ったことのない他者と知り合っているということになる。これは、確実に、対面状況の

ないまま続けられている関係がインターネット上にて築かれ、現実に出会う機会が発生しているということを示している。

IV.1.5. インターネットと「悪口」

昨今、「ネットいじめ」の問題が教育現場などで取り上げられている。特に「学校裏サイト」では、同じ学校の生徒に対して本人の知らないところで悪口が書き込まれ、いじめがエスカレートするという問題がある。では、実際にアンケートを取った明倫高校の学生たちは、他者に対して何らかの悪意ある発言をインターネット上で行っているのだろうか。また、他者からの悪意ある発言を浴びさせられたことがあるのだろうか。

問 30.の「インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？」という問いにおいて、487名の学生が「全く書かない」と回答している。しかしながら30名の学生が「書く」と回答し、そのうちの6名が頻繁に書くとしている。また、問 30.で「書く」と回答した学生に対して行った問 31.の「インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？」という問いに対して33名が「全く書かない」と回答したのに対して、11名が「時々書く」と回答し、4名は「頻繁に書く」としている。つまり、明倫高校内においても、15名の学生が同じ学校の学生に対してインターネット上で悪口が書き込んでいるのである。それでは、インターネット上で悪口を書かれた学生は、自分が悪口の対象となっていることを知っているのだろうか。

問 32.では、「インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？」という質問に対して28名が「ある」と回答している。これは数値にすれば5%であるが、無視できる数ではない。特に内6名に関しては「頻繁に書かれる」と回答しており、彼らは頻繁に自身に悪意が向けられていることを認識している。しかし、ここで注意したいのは、まだ本人が知らないだけで、「知らない」と回答した学生の中にも実は悪口を書かれたことがある学生がいるかもしれないということである。インターネット上には数え切れないほどのwebサイトがあり、それらを全て網羅することは不可能である。すなわち、彼らが「自分の悪口を書かれている」と確認できたのはその一部でしかなく、もしかしたら問 32.にて「知らない」と回答した学生の中にも「頻繁に書かれている」学生や、「時々書かれている」学生が、実際はまだいるかもしれないということである。

問題となっている「ネットいじめ」には「本人の知らないところでいじめが進行する」という怖さがある。これは本アンケートの結果によって「いじめがある」とするものではない。しかしながら、実際に同じ学校にいながらにして、対面ではなくインターネット上で学生に対する悪口が書き込まれ、悪意が向けられているのである。

本アンケートでは最後に、「あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいいますか？」という問いを投げかけた。これに対して423名が「いない」と回答したが、115名は「いる」と回答し、その半数が「同じ高校の友人(先輩・後輩も含む)」と回答して

いる。しかしながら、被害にあった人が「自分」と回答した学生が13名であり、被害にあっていないながらあえて「いない」と回答したか、今回回答対象から外れた三年生の中で被害にあった学生が多数いるのではないかと推測できる。また、「学外の友人」と回答した学生が26名、家族と回答した学生が7名いる。このことにより、確かに学生の周りで「有害サイト」に関する被害が発生しており、彼らがそれを認識していることが明らかとなった。

IV.1.6. 「携帯持たせない運動」の影響

本研究では、野々市町の中学校出身学生の携帯電話の使用実態についても明らかとする。明倫高校へのアンケートにおいて、野々市町出身者は59名、内一年生は24名、二年生は35名である。この数はアンケート回答数の11%を占めている。彼らは小学校・中学校と携帯電話についての学習を重ねており、他の地域の学生と何らかの差がみられるものだと本研究では考えた。その結果は以下の通りである。

携帯電話の所有の有無を尋ねた問4から自身の一ヶ月の携帯電話の請求額の認知を尋ねた問13.までについては、野々市出身学生と他地域出身学生とは大きな差は見られなかった。しかしながら、携帯電話の料金の支払い主は誰かという問14.では、一人を除くほぼ全ての学生が「自分が支払っている」と回答している。これに対しては、自身の持ち物に対する責任感がもたれていると同時に、保護者の干渉から外れた携帯電話のパーソナル化が進んでいるとも考えられる。

次に違いが出たのは問20.の「あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？」である。全体では「アダルトサイトなど」と回答する学生が一番多く、「出会い系サイト」「暴力残虐画像を集めたサイト」がついで多かった。しかし、野々市出身学生の中では「出会い系サイト」と「犯罪や非行を助長するようなサイト」が一番多く、「アダルトサイトなど」「暴力残虐画像を集めたサイト」「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」がついで多くなっている。つまり、「アダルトサイトなど」より、「出会い系サイト」や「暴力残虐画像を集めたサイト」などの、直接犯罪と結びつきやすいサイトを野々市学生は「有害サイト」だと考えていることがわかる。また、「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」について、野々市出身学生の回答は4名であり、野々市出身学生のほぼ全てが「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」を危険視していないという結果となっている。つまり、「出会い系サイト」という名を冠したサイトに対しては警戒心が強いものの、「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」つまりウェブチャット、掲示板などのいつでも簡単に「出会いの場」に成り得るサイトに対しては警戒心が弱いことを示している。

今回のアンケートで一番大きな差が出たのは次の質問である。

問21.「携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？」これに対して全体では47名が「ある」と回答している。しかしそのうち31名が野々市出身学生なのである。つまり、野々市学生の5人に3人が携帯電話から「有

害サイト」にアクセスしているのである。野々市出身学生を除いた学生ではこの数が 30 人に 1 人であるのに対して驚異的である。これは有害サイトについて学ぶことで興味を持ち、アクセスしてみたのではないかと考えられる。また、どのサイトにアクセスしたのかという問いに対して、「わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）」と「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)」が 3 名、「暴力残虐画像を集めたサイト」「犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）」が 2 名、「出会い系サイト」「他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト」が 1 名となったが、残りの 19 名に関しては無回答であり、詳しいことは見えなかった。今回のアンケートでは、野々市出身学生と他地域出身学生との間に全体的に目立った差は見当たらなかった。しかしながら、問 21.「携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？」において、の「ある」という回答数が多いという点については、「寝た子を起こす」ではないが、「有害サイト」の知識を学んだがために、好奇心から「有害サイト」にアクセスしたのではないかと考えられる。ここで問題となるのは、継続してそれからアクセスを続けているのか、それとも興味本位の 1 回だけだったのかということであるが、これについては本アンケートからもれたため、わからない。

IV.2. 若者と携帯電話使用

IV.2.1. インターネットと「居場所」

2004年の6月、長崎市の佐世保市の公立小学校内で小学校六年生の女儿が同級生を殺害するという事件が発生した。彼女たちの間にはインターネットを介したいさかいがあり、それが原因となって強行に及んだのだという。

精神科医の香山リカは、同年9月、長崎家庭裁判所佐世保支部により発表されたこの事件の加害女儿に対する処遇決定文の、女儿にとって「交換ノートやインターネットが唯一安心して自己を表現し、存在感を確認できる「居場所」になっていた」という記述について、ネットはより「なくてすむメディア」の対極にあるものであり、「最後に残された居場所としてのメディア」であると述べている[香山,2004¹³]。

インターネット機能を備えたパソコンや携帯電話が今回アンケートをとった高校生にどの程度「居場所」を提供しているのかはわからない。しかしながら、「有害サイトとはどれか」という問いに対する回答で「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」への回答率が極端に低かったことから鑑みて、彼らにとって「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」自体は有害ではなく、そこから派生する問題が有害なのだという意思が感じられる。つまり、彼らにとって「匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト」は、なんらかの意味を持つ場となっているのである。

携帯電話は電話機能よりもメール機能が使われているのはアンケートでも明らかとなった。また、メール機能と同程度にwebページ閲覧と音楽機能が使用されていることが明らかとなり、さながら携帯電話は小さなパソコンとして機能している。そして、携帯電話はその「パソコンより小型」という点により、今日様々な場所で活躍している。たとえばそれはビジネスの場で、家庭で、友達間で。しかしながら、その持ち運びの容易性、それに伴う気軽性は確実に悪意と表裏一体となって日々存在している。インターネットに「居場所」を求めている学生はおそらく数えられるものではないだろう。

繰り返すが、携帯電話は小さい。それゆえに様々な場所に文字通り「携帯」可能である。電車の中、ベッドの中、学校の机の中、それこそあらゆる場所に、である。携帯電話を持ち、インターネットに接続させることで、「いつでも、どこでも」学生は「居場所」に自身を接続できる¹⁴。松下慶太は携帯電話の使用を禁止されている授業中ですら数多くの私語が飛び交っているとしている[松下,2007¹⁵]。この私語とはメールのことである。メールは物理的空間に雑音を生じさせない私語であり、教師はそれを知ることができない。しかしながら、そこには確実に他者とのつながりが見出せる。携帯電話を常時持ち歩く彼らにとって「ここではない、そこ」とつながることは造作ない。しかしながらその造作なきが様々な

¹³ 香山リカ・森健,2004『ネット王子とケータイ姫』中央公論新社。

¹⁴ 牟田武生はオンラインゲームに熱中する若者を取り上げ、「ネット依存」に対して危機感を募らせている[牟田武生,2004『ネット依存の恐怖』教育出版株式会社.]。

¹⁵ 松下慶太,2007『てゆーか、メール私語』じゃこめてい出版。

問題を誕生させていることも否定できない。

IV.2.2. 携帯電話だけが「悪」か？

携帯電話の誕生とともに携帯電話を使用した犯罪が発生した。これは当たり前の事実であるが、では、携帯電話を取り上げれば犯罪や悪質な行為、特に子供間のいじめはなくなるのだろうか。石野純也は、根本的な解決策を講じないまま携帯電話を取り上げるだけでは同じことの繰り返しになると述べている[石野,2008¹⁶]。チェーンメールが存在する前から「不幸の手紙」は存在し、学校裏サイトが誕生する前から「陰口」は存在した。いじめの方法や性質が変わっても、「他者を貶めたい」という本質は変化していないように思われる。つまり、個々人のモラルの問題となってくる。確かにまったく知らない他者から送られてくる悪質なメールなどに対しては、個人の責任はあまり問われることはない。しかしながら、「見知った他者」を陥れようとするいじめは別物である。これは子供だけではなく、大人社会にも当てはまる。学校裏サイトや携帯電話におけるいじめの問題は、一概に携帯電話を取り上げるだけでは解決することはないだろう。おそらく、この問題は教育のもっとも根底的な問題として語られるものではないかと考える。

IV.2.3. 今後の展望

本研究を踏まえた上での今後の展望としては、以下の点が挙げられる。

- 倫理教育の充実
- 個人情報に関する取り扱いへの注意を促す
- 「有害サイト」であるとの認識が低かったサイトに対する危機意識の強化

これらの点が携帯電話に関係する被害対策であると考えられる。具体的な案としては、小・中学校での「いじめ」などに関係する倫理教育を充実させ、掲示板や学校裏サイトでの加害行為の防止を計る必要があると考えられる。また、個人情報に関する取り扱いや、本調査で「有害サイト」であるとの学生の認識が低かったサイトに対して学生に広く注意を促し、これらに関して、安易に提示し、アクセスすることへの危機意識を持たせる必要があると考えられる。

IV.2.4. おわりに

本研究を通じて様々な子供たちと接した。彼らの多くはまだ携帯電話を持っていない中学生であったが、その多くが高校生になったら携帯電話を持ちたい、使いたいと嬉しそうに話していた。「友達とメール交換がしたい」「インターネットがしたい」「テレビが見たい」と話してくれる彼らにとって携帯電話は「高校生になったら」という言葉も含めた「大人びたツール」であり、「楽しいもの」として意識されていた。しかしながら実際の携帯電話の周囲には様々な悪意が寄り添っている。子供たちがその悪意を認識し、避ける術を身に

¹⁶ 石野純也,2008『ケータイチルドレン』,ソフトバンク クリエイティブ株式会社.

つけた上で携帯電話を使うかどうか。決して携帯電話は恐ろしいだけの存在ではないが、「恐ろしい何かを引き寄せるもの」とあるという認識を持てるかどうか。そこにこそ彼らの携帯電話との共存が見出せるように感じた。

資料

モバイル・リテラシー高校生実態調査アンケート

-----はじめにお読みください-----

このアンケートは、より安全に、より安心して携帯電話を利用できるようにするために実施するものです。匿名式となっており、あなたのプライバシーを特定するような項目はありません。回答していただいた結果は、調査・研究以外には一切使用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせください。
このアンケートの回答は、同時に配布したマークシートの対応する番号を塗りつぶしてください。

あなたのことについておたずねします

問 1. 性別をお答え下さい

- ①男 ②女

問 2. 学年をお答え下さい

- ① 一年生 ②二年生

問 3. 出身中学校をお答え下さい

- ①野々市中学校 ②布水中学校 ③白山市内の中学校 ④金沢市内の中学校
⑤その他の地域の中学校

携帯電話についておたずねします

問 4. 携帯電話を何台使用していますか？

- ①持っていない(「持っていない」の方は問 17.まで進んでください) ②1 台 ③2 台 ④それ以上

問 5. 携帯電話をいつ持ち始めましたか？

- ①小学校入学前から ②小学校入学後から ③小学校卒業前後から中学校入学まで
④中学校入学後から ⑤中学校卒業前後から高校入学まで ⑥高校入学後から

問 6. 携帯電話を主にどのような目的で使用していますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①通話 ②メール ③Web ページ閲覧 ④ゲーム
⑤音楽 ⑥ワンセグ(テレビ視聴) ⑦その他

問 7. 一日平均でどのくらいの時間携帯電話でインターネットを利用していますか？

- ①利用していない ②1 時間未満 ③1 時間以上 2 時間未満
④2 時間以上 3 時間未満 ⑤3 時間以上 4 時間未満 ⑥4 時間以上 5 時間未満

- ⑦5 時間以上 6 時間未満 ⑧6 時間以上 ⑨わからない

問 8. 一日平均でどのくらい携帯電話からメールを送信していますか？

- ①10 件未満 ②10 件以上 20 件未満 ③20 件以上 30 件未満
④30 件以上 ⑤わからない

問 9. 一日平均でどのくらい携帯電話でメールを受信していますか？

- ①10 件未満 ②10 件以上 20 件未満 ③20 件以上 30 件未満
④30 件以上 ⑤わからない

問 10. 一日平均でどのくらい携帯電話から電話をかけますか？(通話回数)

- ①10 回未満 ②10 回以上 20 回未満 ③20 回以上 30 回未満
④30 回以上 ⑤わからない

問 11. 一日平均でどのくらい携帯電話に電話がかかってきますか？

- ①10 回未満 ②10 回以上 20 回未満 ③20 回以上 30 回未満
④30 回以上 ⑤わからない

問 12. あなたは自分の一ヶ月の携帯電話の請求額がどれくらいか知っていますか？

- ①知っている ②知らない(「知らない」の方は問 14.まで進んでください)

問 13. あなたの使っている携帯電話の料金は主に誰が支払っていますか

- ①保護者 ②自分 ③兄弟・姉妹 ④その他

問 14. 課金・有料サイト(提供されているコンテンツを利用する際に料金がかかるサイト)を利用していますか？

- ①利用している ②利用していない

問 15. 学校ではいつ携帯電話を使用していますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①学校では使っていない、あるいは持っていない ②ホームルーム時間 ③授業中
④休憩時間 ⑤放課後 ⑥その他

問 16. 公共の交通機関の中では携帯電話をマナーモードにしたり電源を切ったりしていますか？

- ①必ずしている ②時々しない ③時々する ④全くしない

情報リテラシーについておたずねします

問 17. あなたはリテラシーという言葉を知っていますか？

- ①知っている ②知らない

問 18. あなたはリテラシーの意味を知っていますか？

①知っている

②知らない

問 19. 過去に携帯電話やパソコンの安全な利用方法についての教育を受けたことがありますか？

①ある ②ない ③わからない

問 20. あなたは以下のどれが「有害サイト」だと思いますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①アダルトサイトなど
- ②わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）
- ③出会い系サイト
- ④暴力残虐画像を集めたサイト
- ⑤他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ⑥犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）
- ⑦匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)
- ⑧反社会的な思想を扱ったサイト
- ⑨ギャンブル関係のサイト(ギャンブル一般)
- ⑩その他

問 21. 携帯電話から、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

①ある ②ない(「ない」の方は問 23.まで進んでください)

問 22. 問 21.で「はい」と答えた方にお聞きます。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①アダルトサイトなど
- ②わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）
- ③出会い系サイト
- ④暴力残虐画像を集めたサイト
- ⑤他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ⑥犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）
- ⑦匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)
- ⑧反社会的な思想を扱ったサイト
- ⑨ギャンブル関係のサイト(ギャンブル一般)
- ⑩その他

問 23. パソコンから、あなたの考える「有害サイト」に、すすんでアクセスしたことがありますか？

①ある ②ない(「ない」の方は問 25.まで進んでください)

問 24. 問 23 で「はい」と答えた方にお聞きします。それは何番にあたりますか？当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①アダルトサイトなど
- ②わかりにくい課金制度のあるサイト（音楽ダウンロードサイトなど）
- ③出会い系サイト
- ④暴力残虐画像を集めたサイト
- ⑤他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ⑥犯罪や非行を助長するようなサイト（犯罪や麻薬、薬物、家出、自殺などを助長するサイトなど）
- ⑦匿名性の高いコミュニケーションを中心とするサイト(ウェブチャット、掲示板など)
- ⑧反社会的な思想を扱ったサイト
- ⑨ギャンブル関係のサイト(ギャンブル一般)
- ⑩その他

問 25. あなたは「有害サイト」を危険だと思いますか？

- ①とても危険だと思う
- ②内容によっては危険だと思う
- ③なんとも思わない
- ④あまり危険だとは思わない
- ⑤まったく危険だとは思わない

携帯電話・パソコンによるインターネット利用についてお聞きします

問 26. 自分自身のブログやホームページ、モバゲー、プロフ、mixi などの web ページを持っていますか？

- ①持っている
- ②持っていない(「持っていない」の方は問 28.まで進んでください)

問 27. 問 26.で「はい」と答えた方にお聞きします。そこではどの個人情報載せていますか？

当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①住所
- ②本名
- ③年齢
- ④性別
- ⑤生年月日
- ⑥電話番号
- ⑦メールアドレス
- ⑧所属学校名
- ⑨その他
- ⑩全く載せていない

問 28. インターネットを通じて 直接会ったことのない人と知り合ったことがありますか？

- ①ある
- ②ない(「ない」の方は問 30.まで進んでください)

問 29. その人と、会いたいと思いますか？

- ①会いたいと思い、実際に会った
- ②会いたいと思うが、会ったことはない
- ③会いたいと思わなかったが、会ったことがある
- ④会いたいと思わないし、実際に会っていない

問 30. インターネット上の掲示板などで他人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

- ①頻繁に書く
- ②時々書く
- ③全く書かない(「全く書かない」の方は問 32.まで進んでください)

問31. 問30.で①、②と答えた方にお聞きします。

インターネット上の掲示板などで同じ学校の人の悪口をいう目的で書き込みしたことがありますか？

- ①頻繁に書く ②時々書く ③全く書かない

問32. インターネット上の掲示板などで自分の悪口を書かれたことがありますか？

- ①頻繁に書かれる ②時々書かれる ③知らない

問33. あなたやあなたの周りで「有害サイト」の被害にあった人はいますか？

当てはまるもの全てにマークしてください。

- ①いない ②自分 ③家族
④親戚 ⑤同じ高校の友人(先輩・後輩も含む)
⑥学外の友人 ⑦その他

—これで終わりです。ご協力ありがとうございました—

携帯電話の利用調査

野々市明倫高 町民会議が実施

野々市明倫高で五日、携帯電話やインターネットの利用状況を問う「モバイル・リテラシー調査」Ⅱ号調査が行われ、一、二年生約六百人がアンケートに取り組んだ。

利用調査は、小中学生に携帯電話を持たせない運動に取り組む野々市町ののいちっ子を育てる町民会議の携帯電話対策部会が実施し、北陸先端大科技学院大の小



林俊哉准教授らとともに

質問項目を作成した。

生徒は携帯電話の使用頻度や出会い系サイトへのアクセス経験などを書き込み、調査を通して携帯電話の使用に伴う危険性について理解を深めた。同会議は、アンケート結果を今年度内に報告書にまとめ、今後の対策事業に役立てる。